

ハ其國ノ法律ヲ以テ之ヲ規定ス可キナリ故ニ其齡
十八歳ニ達シタル佛蘭西人ハ十五歳未滿ノ婦女ニ
婚姻ヲ許スノ國ニ在テハ即チ該齡ニ達セサル婦女
ト結婚スルトヲ得可シ

〔第五百九十九〕(四)登記式第七百七十一條

外國ニ於テ結婚セシ佛蘭西人ハ佛蘭西ニ歸リ來リ
タル時ヨリ三月内ニ其婚姻執行ノ証書ヲ其住所ノ
地ノ婚姻証書ノ簿冊ニ登記ス可シ
左ノ場合ニ在テハ決シテ此登記ヲ要セサルモノト
ス

第一 我交際官吏ノ面前ニ於テ佛蘭西ノ法式ニ
循ヒ其婚姻ヲ行ヒタル時第七百七十一條

此場合ニ於テ登記ヲ要セサル所以ノ者ハ現ニ我交
際官吏ハ毎年未ニ至リ其年内ニ領收セシ所ノ身分
証書ヲ登記シタル簿冊ノ一本ヲ佛蘭西ニ送ラサル
ヲ得サレハナリ

第二 佛蘭西ノ婦女外國ニ於テ外國人ト婚姻セ
シ時

第七百七十一條ハ斯ノ如キ者ニ對シ之ヲ適用ス可カ
ラス他ナシ婦女ハ婚姻ノ一時ニ由テ己ニ佛蘭西人

タル分限ヲ失ヒシ者タルヲ以テナリ 第十
九條

又登記ヲ爲ス可キ爲メニ猶豫ヲ與ヘタル三月ノ期
限ハ決シテ「デレー、フ、ア、タール」其日限ヲ過ゴセハ己ノ
ニ權ヲ失フノ期限

期限ニ非サルカ故ニ何時ニテモ其登記ヲ爲スヲ得
可シ但シ三月ノ期限ヲ終ヘタル後ハ裁判所ノ允許
ヲ得ルニ非サルヨリハ其登記ヲ爲スヲ得ス

又爰ニ我輩ノ講究セサル可カラサル重要ノ疑問ニ
アリ左ニ之ヲ叙ヘン

〔第六百〕(第一疑問)凡ソ佛蘭西人ハ我「コード」ニ定メ
シ所ノ婚姻公告ヲ佛蘭西ニ於テ爲ス可キノ要件ヲ

盡シタル以上ハ外國ニ於テ婚姻ヲ行フヲ得可シト

雖モ 第七
十條 若シ或ハ此要件ヲ盡サ、ル時ハ何等ノ

刑ニ處セラル可キ乎曰ク之ヲ盡サスシテ婚姻ヲ行

ヒシ夫婦ハ第九十二條ニ定ムルノ刑即チ其家財

ニ准シタル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ然レハ則チ唯タ

此刑ニ止ル可キ乎將タ第七十條ニ定メシ所ノ公

告ヲ爲ス丁無ク外國ニ於テ執行シタル婚姻ハ之ヲ

取消ト爲ス可キ乎又ハ之ニ反シ其等閑ニ付セシニ

關セスシテ猶ホ其効ヲ保ツヲ得可キ乎

此疑問ニ就テハ三説アリ左ノ如シ

〔第六百〇一〕(第一説)此婚姻ハ第七十條ニ定メシ公

告ヲ爲サ、ルノ一事ヲ以テ已ニ取消ト爲スニ足ル
可シ蓋シ裁判官ハ斯ノ如キ婚姻ニ付キ其前後ノ情
況ヲ酌量シ佛蘭西ニ於テ全然公ケニナリシトテ口
實トシ以テ之ヲ有効ト爲スカ如キ權利ヲ有テル者
ニアラス

現ニ第七十條ニ載スル所ノ法文ヲ以テ之ヲ徵明
スルニ足ル可シ該條ニ曰ク外國ニ於テ契約シタル
婚姻ハ云々預メ第六十三條ニ定メシ公告ヲ爲シタ
ラニハ則チ以テ其効ヲ保ツ可シト而シテ凡ソ法

文ニ某ノ行爲ハ某ノ法式ヲ行ヒタラニハ其効ヲ
保ツ可シトアル者ハ是レ某ノ行爲ハ其効ヲ保ツ可
キ爲メニ定メタル法式ニ注意セサレハ其効ヲ保タ
スシテ即チ取消タル可シト云フニ異ナラストス
百五十七條、第六百八十六條、第九百四十八條、第九百七十
條、第一千三百二十五條、第一千三百三十八條、第一千三百九十條、
第一千四百二十九條ニ據ル

然レ日本國即チ佛蘭西ニ於テ婚姻ヲ行フ時ハ預メ
爲ス可キノ公告ヲ爲サ、ルモ必スシモ之ヲ取消ニ
付ス可カラス(第五百六
十)ヲ見ヨ 其故ヲ問フニ此ニ論スル所
ノ類ニハ決シテアル可カラサルニ箇ノ理由ニ基ッ

ケルナリ左ニ之ヲ示サン

第一 佛蘭西ニ於テ婚姻ヲ行フ時ハ其効ヲ保タ
 ンカ爲メ法律上ニ要求セル所ノ公ケニ爲ス可
 キ要件ノ中或ハ其一ヲ缺ク丁アルモ幾何カ又
 公ケニ爲ス可キ種々ノ原由ヲ存スルナリ今之
 ヲ舉クレハ其執行ニ先タツ所ノ公告本人等一
 方ノ住所ニ於ケル身分証書ノ官吏ノ面前ニテ
 執行スル事其執行ノ時衆庶ノ來廳ヲ許ス事ノ
 如キ即チ是ニテ是レ裁判官ニ獨權ヲ授クル所
 以ノ者ニ係リ且ツ公告ヲ缺キタル事ト公ケニ

爲スノ法式ヲ缺キタル事トヲ混同ス可カラサ
 ルノ緣由タリ而シテ甲公告ヲ缺キタルトハ唯々其身分
 証書ノ官吏及ヒ其本人等ニ多少ノ罰金ヲ課ス
 ルニ止リ第百九十二條 乙 公ケニ爲スノ法 式ヲ缺キタルト 則
 チ其婚姻ノ取消ヲ伴隨スルモノトス第百九十一條
 外國ニ於テ婚姻ヲ執行スルカ如キハ之ト相同
 シカラスシテ若シ佛蘭西ニ於テ之ヲ公ケニ爲
 サントスルニハ單ニ其執行ニ先タツ所ノ公告
 ノ一手段アルノミ故ニ或ハ此公告ヲ爲サ、ラ
 ンニハ佛蘭西ニ在テハ公ケナラサルノ婚姻タ

ルヲ以テ第百九十一條ノ法文ニ循ヒ之ヲ取消ト爲ス可キナリ

第二 佛蘭西ニ於テ婚姻ヲ執行スル時若シ預メ其公告ヲ爲サ、ランニハ身分証書ノ官吏ハ罰金ノ言渡ヲ受ク可クシテ是レ此法則ヲシテ一般遵奉セシムルニ足ル可キナリ然レモ佛蘭西國外ニ於テ契約シタル婚姻ニ至テハ固ヨリ斯ノ如キ罰則ノアルアリテ右ノ法則ヲ擔保スルモノニアラス何トナレハ佛蘭西ノ法律ニ於テ定ムル所ノ刑典ハ之ヲ其婚姻ヲ執行シタル外國ノ民生官吏ニ適用スルヲ能ハサルヲ以テナリ是故ニ他ノ刑典即チ其公告ヲ爲サ、ル時ハ其婚姻ヲ取消ト爲シ以テ更ニ此法式ヲ履マシメサルヲ得ス

〔第六百〇二〕(第二説)外國ニ於テ執行シタル婚姻ハ假令第百七十條ニ定メシ所ノ公告ヲ爲サ、ルモ諸般ノ場合ニ於テ其効ヲ保ツヲ得可シ蓋シ裁判官ハ法律上所定ノ公告ヲ爲サ、ルヲ口實トシ之ヲ取消ト爲スカ如キ權理ヲ有スル者ナラス

凡ソ婚姻ノ物件ニ關シテハ妄リニ其法律ノ所缺ヲ

補足シ以テ之ヲ取消ト爲ス可カラス而シテ婚姻ノ契約ハ假令二三ノ規則ニ背キ以テ之ヲ執行スルトアルモ猶ホ之ヲ取消ト爲スニ足ル可カラスシテ即チ法律上其所犯ノ規則ニ附スルニ判。然。取消ノ刑ヲ以テスルト要ス故ニ例ヘハ第二ノ公告ヲ爲シタル後未タ三日ノ期限ヲ終ヘサル内若クハ此期限ノ盡キテヨリ已ニ一年間ヲ經タル後若クハ當ニ寡婦タルヘキ十個月ノ期限内等ニ執行シタル婚姻ノ如キハ(第五百六十)及ヒ(第五百六十二)ヲ見ヨ己ニ第六十四條、第六十五條及ヒ第五百二十八條ニ是等ノ時限ニ方テハ婚姻ヲ

行フト能ハストノ明文アリト雖モ尙ホ且ツ其効ヲ保ツヲ得可シ而シテ此ノ如キ婚姻ハ固ト是レ法律ノ禁止ヲ犯シ以テ執行シタルモノナレト敢テ之ヲ取消スト能ハサルハ唯タ其法律ニ明文アラサルニ因レルノミ乃チ我法律ニ於テハ第七十條ニ示定セル公告ヲ爲サ、ランニハ其婚姻ヲ以テ取消ニ付ス可シトノ法文アルヲ見ス但シ該條ニハ凡ソ婚姻ハ預メ其公告ヲ爲シタランニハ其効ヲ保ツ可シトノ明文アリト雖モ其之ヲ履行セサル時ノ處置ニ至テハ更ニ之ヲ明示セシト無ク即チ其取消タルトヲ掲

載。セ。サ。ル。ナ。リ。蓋シ之ヲ取消ト爲スノ説ハ夫ノ「ア。コ
 ントラリオ」解在ノ論法ニ基キ以テ推論セシモノタ
 ル可シト雖モ婚姻ニ關シテハ法律上此種類ノ論法
 ヲ以テスルトヲ許サ、ルカ故ニ第四篇ニ於テ明記
 セシ所ノ外更ニ取消ト爲ス可キ者アルトナシ且ツ
 第六十四條、第六十五條及ヒ第二百二十八條中ニ執
 行。ス。ル。ト。能。ハ。ス。ト云ヘルノ語ハ第七十條ニ公告
 ヲ爲シタラシニハト云ヘル語ノ如ク並ニ其効力ヲ
 有ツ可キモノナレト此諸條ニ背戾シテ執行シタル
 婚姻ハ之ヲ取消ト爲ス可キノ説ヲ主張スル者ハ未

タ曾テ有ラサル所トス

〔第六百〇三〕(第三説)外國ニ於テ執行シタル婚姻ニシ
 テ第七十條ニ示定セル公告ヲ爲サ、ル時ハ之ヲ
 取消ト爲スヤ否ヲ決スルハ則チ裁判官ノ意見ニ任
 ス可キモノタリ而シテ裁判官ハ此婚姻執行ノ時及
 ヒ其前後ノ景況ヲ斟酌シ以テ之ヲ判決スルヲ要ス
 ルノミ

佛蘭西ニ於テ預メ公告ヲ爲スノ式ヲ履ムト無ク外
 國ニ於テ執行シタル所ノ婚姻ハ常ニ必スシモ有効
 ノ者タラス是レ其効ヲ保ツ可キ爲メノ要件ヲ盡サ

ルニ由ル然レモ又必スシモ取消ト爲ス可キ者ニ
モアラス他ナシ法律ニ於テ之ヲ取消ト爲スノ明文
ヲ存セサレハナリ然ラハ則チ斯ノ如キ婚姻ハ畢竟
如何ナル者トセン此兩端ニ際シテハ唯々宜ク諸般
ノ景況ニ從ヒ之ヲ取消ト爲シ得可キ婚姻ノ種類ニ
屬スルノ外アラスシテ裁判官ノ特權ヲ生スル所以
モ亦蓋シ此ニ在ルノミ

〔第六百〇四〕右ニ列叙セシ所ノ如ク第一説ニ於テハ
常ニ其婚姻ヲ以テ取消ト爲シ第二説ニ於テハ決シ
テ之ヲ取消ト爲ス可カラストシ而シテ第三説ハ其
景況ノ如何ニ從ヒ其効ノ有無ヲ決ス可キモノトセ
リ

〔第六百〇五〕(第二疑問)外國ニ於テ婚姻ヲ行ヒシ佛蘭
西人ノ日後若シ佛蘭西ニ復歸セシ時ハ其復歸ノ當
日ヨリ三月内ニ其婚姻執行ノ証書ヲ其住所ノ身分
証書ノ簿冊ニ必ス登記セシメサルヲ得サルモノト
ス然ルニ若シ此義務ヲ欠キシ時ハ何等ノ刑ニ處ス
可キ乎是レ第七十一條ニ敢テ明示セサル所タレ
ハ此婚姻ハ之ヲ取消スヲ以テ其刑トスルモノ乎將
タ罰金ヲ課スルニ止ルモノ乎又ハ他刑ニ處ス可キ

モノ乎

其婚姻ハ之ヲ取消ス可キニ非ス亦罰金ヲ課ス可キニモ非サルモノトス何トナレハ敢テ法文ニ其取消ス可キヲ明示セス且ツ罰金ハ法律上分明ニ定メシモノ、外漫リニ之ヲ課ス可キニ非ス然ルニ第七十一條ノ規則ヲ履行セサル佛蘭西人ニ對シ敢テ罰金ヲ課ス可キノ法文ナキカ爲メナリ

然ラハ則チ此義務ノ如キハ法律上ニ於テ之ヲ命セシ其本人ノ隨意ニ任ス可キモノタル乎即チ之ヲ欠クト雖モ更ニ其刑ナキモノトスル乎舊書家中或ハ

然リト爲ス者アリ然リ而シテ其之ヲ然リト爲ス者ハ其意謂ラク第七十一條ハ全ク定例タルニ過キサル條規タレハ其復歸セシ佛蘭西人ニ對スル簡單ノ訓告タルニ止ルモノタリト

然レハ其他ノ舊書家ハ皆ナ云ク凡ソ法律ハ必ス其刑ヲ帶隨スルニ非サレハ決シテ成立ス可キニ非ス故ニ第七十一條ニ其法律ノ命セシ法式ヲ欠キシ者ニ對シ敢テ分明ニ其罰ヲ示定セスト雖モ顯ミルニ之ヲ欠キシ者ノ敢テ其罰ヲ受ケサルノ理アラシ乎下因テ今爰ニ其刑ノ如何ヲ搜索知得スルヲ要ト

ス

凡ソ法律ハ若シ其刑ヲ明示セサル時ハ其之ヲ犯セ
 シ者ノ受ク可キ刑ハ自カラ其法律ヲ履行セシ者ノ
 享有ス可キ利益ヲ奪却スルニ在レハ法律ノ豫備セ
 シ其目的ノ本質ニ就キ以テ其執行ヲ固定ス可キ刑
 ノ本質及ヒ分域ハ之ヲ定ムルニ足ルモノタリ
 然リ而シテ外國ニ於テ執行シタル婚姻ヲ佛蘭西ノ
 公簿ニ登記スルヲ要スル其目的ハ其婚姻ヲシテ國
 中ニ公ケナラシメントスルニ在リ故ニ此法式ヲ行
 ハサレハ其婚姻ハ夫婦ノ間ニ在テハ其効ヲ有スル
 モ他人ハ之ヲ知ラサルモハト看做ス可シ故ニ之ニ
 向テ此婚姻ヲ對抗スルトヲ得サルナリ

右ノ本主義ニ據リ爰ニ左ノ諸件ヲ決定ス

第一 第七十一條ノ規則ヲ履行セサリシ婦ハ

怠期ノ登記ヲ爲シ、日ヨリ後ニ非サレハ其夫

ニ對シテ書入質ノ權ヲ有スル債主ノ中ニ列班

スルトヲ得ス又夫ノ家資分散ヲ爲スカ又ハ其

生前ニ登記ヲ爲サレハ全ク其權ヲ失ヒ而シ

テ通常ノ債主中ニ列班セラル可シ

第二 其婦ハ未婚者ト看做スニ因リ其夫又ハ裁

判所ノ允許ヲ得スシテ契約ヲ爲スヲ得可シ故
ニ其契約ハ假令允許ヲ得スシテ行ヒタルモノ
ナリトモ夫又ハ自己ヨリ其取消ヲ訟求スル
ヲ得ス即チ之ヲ約言スレハ第七十一條ノ規
則ヲ履行セサル夫婦ハ第二百二十五條ニ載ス
ル利益ヲ失フ可キモノタリ

第三 其婦ノ子ハ他ノ血屬親ノ權理ヲ害シ獨リ

佛蘭西ニ於テ其婦ノ所有スル財産ヲ相續スル
トヲ得ス

第四 其婚姻ハ佛蘭西ニ於テ其夫ノ契約スル再

婚ノ妨害タラサル可シ

〔第六百〇六〕 若シ此成果ヲシテ果シテ然ラシムル時
ハ第七十一條ノ意義ハ宛モ謎語ノ如ク然ルモノ
ナリ何トナレハ其外形ハ寛大ノ法律ニ於テモ更ニ
之ニ加フルアル可カラスト雖モ其効果ニ至テハ又
之ヨリ嚴酷ナル法律アルヲ見サレハナリ因テ茲ニ
其所由ヲ云フニ本條ニ於テハ其之ニ背ク者ニ對シ
罰スル所ノ刑ハ敢テ指示スルナシト雖モ若シ或ハ
之ヲ怠リタル時ハ其不幸獨リ本人ノミナラス以テ
其子ニ及ホス可シ即チ他ナシ生前其財産ヲ有スル

爲メノ諸擔保ヲ奪ハレ又其最モ貴重ス可キ權理ヲ害セラル可ク而シテ死後其子ノ身位ヲ損シ之ヲ嫡出ノ子ト同視セシムルヲ能ハサルニ至ル可シ此ニ由テ之ヲ觀レハ刑典ヲ伴隨セサル規則ノ如キハ却テ恐ル可キニ非サルカ

且ツ前推論ノ如キハ本條ノ源由セシ所ノ本主義ニ戻レルヤ論ヲ竝タス然レ氏登記式ヲ行ヒ以テ世ニ公ケニセサル婚姻ハ民事上ノ効果中性質ニ因リ婚姻ヲ公ケニ爲スノ要件ニ屬セシモノニ限リ佛蘭西ニ於テハ其効ヲ生セスト云ハ、蓋シ理ニ於テ戻ラ

スト雖モ若シ此婚姻ノ如キ佛蘭西ニ於テハ婚姻ヲ公ケニ爲スノ要件ニ屬セサル効ニ至ルモ亦盡ク之ヲ生ス可カラスト云ハ、則チ此婚姻ハ佛蘭西ニ於テハ更ニ効驗無キナリト云フカ如シ故ニ曰フ其法律ノ本意ニ背キ且ツ已レヲ欺クモノナリト何トナレハ此婚姻ト雖モ外國ニ於ケルト同シク佛蘭西ニ於ケルモ其効驗ニ至テハ更ニ異論無キヲ以テナリ

〔第六百〇七〕前論理由ノ誤リタル論者自カラ之ヲ知得シ既ニ改定セシ所タリ即チ他ナシ婚姻ニ因テ生スル民事上ノ効ノ中婦ノ有スル法律上書入質ノ權

第二千二百一十條ト其夫或ハ裁判所ノ允許ヲ得スシテ行ヒシ諸ノ契約ヲ取消サシムル權第二百五條トノ如キ其婚姻ヲ公ケニ爲スニアラザレハ生ス可カラサル所ノ効及ヒ其遺物相續ヲ爲ス權ト其子ノ嫡出タル事トノ如キ婚姻ヲ公ケニ爲サンヨリ寧ロ其執行ニ因リ直チニ生ス可キ所ノ効ヲ區別スルニ至リシナリ

第一ノ効法律上書入質ハ怠期ノ登記式ヲ行ヒシ後ニ非サレハ佛蘭西ニ於テハ之ヲ生セサルモノトス

若シ或ハ然ラサランニハ第三者ニ在テ蓋シ不慮ノ損害ヲ蒙リ之ヲ避ルニ道ナカル可クシテ是レ恐ラ

クハ公正至當ノ理ニ非サルナリ

第二ノ効遺物相續ヲ爲ハ更ニ登記式ニ關セサルモノナリトス

〔第六百〇八〕 近時ニ至リ稍ク妥當ノ説ヲ開陳スル者

アリ今其詳細ヲ左ニ説明セン

第七十一條ノ法式ヲ履行セサル所ノ婦ハ其夫ノ財産ニ付キ法律上書入質ノ權及ヒ其夫ノ結ヒタル契約ヲ取消サントスル訴訟ノ權ヲ失フヤ否ヲ知ラント欲セハ其事實即チ當時ノ情況ヲ酌量シ以テ之ヲ決セサルヲ得サルナリ

登記式ヲ行ハサルハ則チ一ノ令法ニ背キタル者ナ
 レハ過失ノ罪ヲ免カレサル者ト爲ス
 然リ而シテ過失ノ罪ニ因リ他人ノ損害ヲ醸シタル
 ト否トヲ區別スルヲ以テ必要トス而シテ甲ノ場合
 ニ於テハ婦其權理ノ擔保ヲ失ヒ乙ノ場合ニ於テハ
 之ヲ保有ス可キモノトス
 佛蘭西ニ於テ婚姻ヲ公ケニ爲スニ付キ更ニ他ノ手
 段ノ存セサル時ニ當リ若シ登記式ヲ行ハサレハ則
 チ是レ損害ヲ醸ス可キ過失ノ罪ヲ免レサル者タリ
 而シテ凡ソ過失ノ罪ハ其之ニ由テ生シタル損害ヲ

償フ可キノ義務ヲ負フモノトス 第一千三百八十二條 故ニ其婦

ハ他人ノ我婚姻ヲ知ラスシテ其夫ト契約シタル債
 主ニ對シ法律上書入質ノ權ヲ對抗シ又ハ夫或ハ裁
 判所ノ允許ヲ得スシテ其自カラ行ヒシ契約ノ取消
 ヲ訟求シ以テ此義務ニ免カル、トヲ得ス
 然ルニ登記式ニ非サル他ノ方法例ヘハ夫ノ不動産
 所在ノ地ノ書入質官署ノ簿冊ニ其法律上書入質ノ
 記入ヲ爲スカ又ハ數年來夫婦ノ景狀ヲ有スル等ニ
 因リ佛蘭西ニ於テ自カラ其婚姻ノ既ニ公ケニナリ
 タル時ニ際シ登記式ヲ行ハサルハ則チ是レ損害ヲ

ナ。○。ス。○。可。○。キ。○。過。○。失。○。ノ。○。罪。○。ヲ。○。醸。○。成。○。ス。○。可。○。キ。○。モ。○。ノ。○。ニ。○。非。○。ス。○。故。○。ニ。○。此。○。
 ノ。○。如。○。キ。○。時。○。ニ。○。臨。○。ミ。○。テ。○。ハ。○。其。○。婦。○。公。○。ケ。○。ニ。○。婚。○。姻。○。セ。○。シ。○。婦。○。ノ。○。諸。○。權。○。
 ヲ。○。享。○。有。○。ス。○。ル。○。ト。○。ヲ。○。得。○。可。○。シ。○。現。○。ニ。○。此。○。時。○。ニ。○。當。○。リ。○。其。○。婦。○。又。○。ハ。○。夫。○。
 ト。○。契。○。約。○>シ。○。タ。○>ル。○>者。○>豈。○>敢。○>テ。○>登。○>記。○>式。○>ヲ。○>行。○>ハ。○>サ。○>ル。○>ノ。○>苦。○>情。○>ヲ。○。
 述。○>フ。○>ル。○>ヲ。○>得。○>可。○>ケ。○>ン。○>ヤ。○>畢。○>竟。○>其。○>婚。○>姻。○>ハ。○>登。○>記。○>式。○>ヲ。○>行。○>ヒ。○>シ。
 ヨ。○>リ。○>却。○>テ。○>明。○>カ。○>ナ。○>ル。○>ニ。○>非。○>サ。○>ル。○>歟。○>又。○>何。○>等。○>ノ。○>法。○>文。○>ヲ。○>口。○>實。
 ト。○>シ。○>以。○>テ。○>其。○>婦。○>ニ。○>權。○>無。○>キ。○>ヲ。○>唱。○>フ。○>ル。○>歟。○>若。○>シ。○>果。○>シ。○>テ。○>其。○>唱。
 フ。○>ル。○>所。○>ノ。○>如。○>ク。○>其。○>婦。○>ニ。○>權。○>ナ。○>キ。○>時。○>ハ。○>是。○>レ。○>即。○>チ。○>一。○>個。○>ノ。○>刑。
 ニ。○>屬。○>ス。○>ル。○>モ。○>ノ。○>タ。○>リ。○>抑。○>刑。○>ハ。○>法。○>律。○>上。○>明。○>カ。○>ニ。○>之。○>ヲ。○>指。○>示。○>定。
 立。○>セ。○>サ。○>ル。○>ヲ。○>得。○>ス。○>ト。○>雖。○>モ。○>獨。○>リ。○>此。○>事。○>ニ。○>至。○>リ。○>テ。○>ハ。○>更。○>ニ。○>其。

明文ヲ見サルナリ

〔第六百〇九〕 余ハ顧フニ登記ノ法式ハ唯タ夫婦ノ利
 便ヲ謀リテ設爲スル所ノモノニシテ而シテ他人ノ
 爲メニスルニ非サルヤ明カナリ然ラハ則チ縱令之
 ニ背クモノアルモ他人ニ於テ豈敢テ之ヲ訴フルノ
 權アラシヤ余今「コード」ノ草案ヲ講究シ以テ之ヲ証
 明セン

草案第七十一條ノ法文ハ即チ左ノ如シ
 凡ソ外國ニ於テ婚姻ヲ執行セシ佛蘭西人ノ他日本
 國ニ復歸セシ時ハ必ス其當日ヨリ三月内ニ其証書

ヲ簿冊ニ記入ス可シ若シ此記入ヲ爲サ、ル時ハ記簿稅ノ倍額ヲ課ス可シ

又此證書ハ同期限内ニ其住所ノ婚姻證書ノ簿冊ニ登記ス可シ若シ此登記ヲ爲サ、ル時ハ百フラン以上千フラン以下ノ罰金ヲ課ス可シト是ナリ

故ニ此規則ニ於テハ凡ソ佛蘭西人ハ二個ノ法式ヲ履行セサルヲ得サルモノトス而シテ各一定ノ刑典ヲ設ケ以テ之ヲ固定セシモノタリ即チ左ノ如シ記入ノ法式ト其之ニ伴隨スル刑典トハ全ク財政上ニ關スルモノニシテ專ラ政府ノ利益ヲ主トス而シ

テ他人若クハ夫婦ノ利益ヲ以テ其目的ト爲スモノニ非ストス

登記ノ法式ニ至テハ其之ヲ設爲セシ目的ヲ知ルハ蓋シ容易ノトニ非ス然レモ財政上ノ目的ヲ以テセシニ非サルヤ固ヨリ明カナル所ナリ何トナレハ記入ノ法式ニ於テ已ニ倍稅ヲ課スルノ刑ヲ附シ以テ之ヲ國庫ニ徵スレハナリ又他人ノ利益ヲ謀リタルモノニモ非ス苟モ他人ノ利益ヲ謀リタルモノトセハ夫婦中其法式ニ背キシ一方ノ者ニ對シ定ムル所ノ刑ハ其結婚ヲ知ラスシテ契約シタル第三者ニ付

與スル其償ヒヲ以テ之ヲ組成セサルヲ得ス然ルニ其刑ハ全ク銀料ニ關スルモノニシテ獨リ政府ニ於テ其利ヲ収ムルヲ得ルノミトス。然ラハ則チ此登記式ハ其夫婦子女若クハ族類ノ利益ヲ謀ルモノニ非サルヲ得ンヤ抑佛蘭西人ニ在テハ其民事上分限ノ基ク所ノ事由ヲ証徴センカ爲メノ証書ヲ確存スルヲ以テ法律上之ヲ緊要ノモノト爲スハ人ノ皆ナ知ル所ナリ然ルニ外國ニ於テ記載シタル証書ノ如キハ其保存ノ方法蓋シ不完全ニシテ確然之ヲ保存スルヲ能ハサルモノ、如シ故ニ立

法官ハ夫婦及ヒ其子ノ分限ヲシテ此ノ如ク確保ス可カラサル証書ニ從屬セシメサルカ爲メ至當ノ方法ヲ設ケサルヲ得ス故ニ其婚姻執行ノ証書ヲ以テ之ヲ佛國ノ身分証書ノ簿冊ニ登記セシムルハ此目的ヲ達スルノ最モ確然ノ方法トナス因テ思フニ本條草案ノ起草者ニ在テ登記式ヲ設クルノ趣意ハ夫婦若クハ其子ニ各自分限ノ証ヲ舉クルニ簡ニシテ且ツ速カナル方法ヲ備ヘンカ爲メ其身分証書ヲ規定シ以テ保存ヲ固クセントスルニ在リ又佛蘭西國外ニ在ル兵士ノ身分証書官ノ職ヲ攝行スル士官ノ

面前ニ於テ契約セシ婚姻ノ証書ヲ通常ノ身分証書ノ簿冊ニ登記スルヲ要スルモ亦此趣意ニ由ルモノナリ 第九十
五條

全「コード」ニ定メシ法則ヲ左ニ示サン

第七十一條ニ於テハ別ニ記入ノ法式ヲ載セサルヲ以テ觀レハ己ニ之ヲ廢止セシヤ明カナリ

登記ノ法式ハ猶ホ之ヲ存スルト雖モ其草案ニ於テ記載シタル夫ノ罰金ノ刑ニ至テハ又之ヲ掲クルト無キナリ

然レハ則チ罰金ノ刑ハ之ヲ他刑ニ改メタルモノナ

ル乎參議院ノ論議ニ據ルニ敢テ然ルニ非サルヲ証スルニ足レリ因テ之ヲ左ニ掲ク

デフェルモン氏曰ク第七十一條ハ何故ニ之ニ刑典ヲ附シ以テ其執行ヲ固定セサルヤト

レアル氏之ニ對テ曰ク此刑典ノ如キ固ト是レ記簿稅ニ關ス可キモノタレハ民法ニ屬ス可キモノニ非ス之ヲ其記簿法ニ掲クルヲ以テ至當トス是ヲ以テ己ニ之ヲ其法中ニ記載セリト

トロンシュー氏ハ違犯者ニ倍稅ヲ課スルノ法ト相觸ル、トナク別ニ之ニ罰金ヲ課セントヲ欲シタリ

是故ニレアル氏ノ説ニ從フ時ハ登記式ニ就テハ
 今其刑ヲ斯ニ論スルヲ須ヒス何トナレハ己ニ記簿
 法ニ關スル法則中ニ其刑ヲ存スルヲ以テナリ即チ
 他ナシ其違犯セシ夫又ハハ倍稅ヲ拂ハサルヲ得サ
 ルモノタリ

然ルニ余ハ同氏ノ説ニ從ヒ勉メテ其法則ヲ探究セ
 リト雖モ更ニ之ヲ存スル所アルヲ見ス抑身分証書
 ノ如キ縱令財政上ノ見込ヲ以テスルモ決シテ記簿
 法ニ屬スルモノニ非サルナリ因テ思フニレアル
 氏ハ能ク探究ヲ盡サスシテ登記式ヲ欠キシ者ハ己

ニ倍稅ヲ課スルノ規則アリト誤認シ以テ妄言シテ
 其同僚ノ者ヲ惑ハスニ至リ遂ニ夫ノカデフルモン氏
 ノ第百七十一條ハ更ニ其刑典無シトノ注意ヲ抑止
 セシ者ト謂ハサルヲ得ス然ラハ則チ此法ノ遂ニ完
 全ナラサル所以ハ固ト是レ誤解ニ因ルモノタリ

〔第六百十〕右ニ叙述セシ所ヲ觀レハ第百七十一條ハ
 論者ノ之ニ附加セントセシカ如キ其意義ヲ有セサ
 ルトヲ表明スルニ足ル可シ然ラハ則チ本條ノ効果
 ハ唯々佛蘭西人ノ身分証書ヲ扱フ可キ官吏ニ命ス
 ルニ其己レニ示セシ婚姻執行ノ証書ヲ其管守スル

簿冊ニ登記ス可キノ義務ヲ以テセシニ外ナラス而シテ規則ニ從ヒ之ヲ登記セサル時ハ其婚姻ノ証據ヲ舉クルニ難ク且ツ延滞ヲ生ス可キニ因リ正ニ是レ其刑典ヲ組成スルモノタリ但シ草案ノ如ク少クモ其違犯者ニ罰金ヲ課セサルハ蓋シ遺憾ナキニ非スト雖モ抑法律ノ欠漏ヲ彌縫スルニ至テハ註釋者或ハ裁判官ノ得テ關ス可キ所ニ非サルナリ

○第三章 婚姻ノ故障

〔第六百十二〕(一)婚姻故障ノ義意

婚姻ノ故障トハ之ヲ申述スル權ヲ有スル者ヨリ使

吏ヲ紹介シテ民生官吏ニ對シ婚姻ノ執行ヲ禁セシメントスル所爲ヲ云フ

婚姻ノ故障ヲ告知セラレシ民生官吏ハ其夫婦トナラントスル者ヨリ更ニ之ニ故障ヲ止メタルノ証書ヲ示サ、ル間ハ決シテ其婚姻ヲ執行ス可カラス若シ之ニ關セスシテ其婚姻ヲ執行シタル者ハ三百フランノ罰金及ヒ損害ノ償ヒヲ爲ス可キノ言渡ヲ受ク可シ

〔第六百十三〕(二)婚姻故障ノ種類

婚姻ノ故障ニ二種ノ別アリ即チ適法ノ故障及ヒ好

意ノ故障是ナリ

法律上定メタル場合ト法式トニ從ヒ其分限ヲ有スル者ノ求メニ因テ成レルモノヲ適法ノ故障ト云フ
 法律上權理ヲ授ケサル者又ハ其權理ヲ有スルモ法律上定メタル場合ト法式トニ因ラスシテ申述シタルモノヲ好意ノ故障ト云フ

今其詳細ヲ左ニ説明セン

凡ソ婚姻ノ故障ハ其之ニ關セスシテ其婚姻ヲ執行セシ身分証書ノ官吏ニ對シ至當ノ刑典アル者タリ故ニ身分証書ノ官吏ノ若シ其故障ニ關セサル時ハ其

所爲假令正實ニ出テ即チ其故障ノ根據スル所無キヲ信認シ且ツ現ニ其根據無キ時ト雖モ猶ホ之ヲ罰ス可シ但シ婚姻ノ故障ヲシテ此ノ如キ効力ヲ有セシメンニハ(第一)其權理ヲ有スル者(第二)法律上所定ノ原因ト其法式トニ從ヒ以テ之ヲ組成セサルヲ得ス
 法律上故障ヲ述フルノ權ヲ授ケサル者ト雖モ現ニ其婚姻ニ故障アルヲ信認セハ又之ヲ身分証書ノ官吏ニ告知スルヲ得ルモノトス而シテ之ヲ告クルニ口上書面若クハ使吏ノ紹介ヲ以テスルヲ得可シ然レモ是等ノ者ヨリ申述シタル故障ハ假令何等ノ

法式ヲ用フルモ其之ニ關セサル身分証書ノ官吏ヲシテ更ニ刑ニ處セシムルモノニ非ス故ニ是等ノ故障ニ關セスシテ其婚姻ヲ執行セシ身分証書ノ官吏ハ若シ其故障ノ原由セシ障碍ノ果シテ存セサルニ於テハ更ニ罰セラル可キ者ニアラス但シ之ニ反スル場合ニ際セハ素ヨリ罰セラル可シト雖モ是レ其故障ニ關セサルカ爲メニ非スシテ通則ニ從ヒ以テ罰セラル可キモノタリ即チ之ヲ詳言スレハ法律ニ於テ己ニ執行ヲ禁シタル婚姻ヲ故意ヲ以テ妄リニ執行セシカ爲メナリ

其權理ヲ有セサル者ノ求メニ因テ造成シタル故障ニ關シ前ニ叙述セシ所ノモノハ其權理ヲ有スル者ノ法律上ニ定メタル場合ト法式トニ因ラスシテ爲シタル故障ニ於ケルモ亦通シテ之ヲ準用ス可シ故ニ適法ノ故障ニ在テハ其之ニ違反シタル民生官吏ハ諸般ノ場合ニ際シ盡ク其責ニ任ス可キモノタリ即チ詳カニ言ヘハ管ニ其故障ノ成果ノ如何ヲ問ハサルノミナラス其之ヲ申述シタル者ノ口實ト爲セシ其趣意ノ果シテ根據無キ時ト雖モ其婚姻ヲ執行セシ身分証書ノ官吏ハ必ス罰セラル可キ者トス

故ニ謹直ノ官吏ハ其故障ノ眞ニ根據無キヲ信認スルモ其婚姻ノ執行ハ蓋シ之ヲ肯セサル可シ好意ノ故障ニ至テハ之ニ反シ唯々其一個ノ効果ヲ有スルノミ即チ他ナシ其故障ノ由テ基ク障碍ノ果シテ存スル時ニ在テハ其告知ヲ受ケ猶ホ之ニ關セスシテ其婚姻ヲ執行セシ身分証書ノ官吏ハ即チ不誠實者タルヲ免カレサルモノトス然レモ若シ其故障ノ根據無ク又身分証書ノ官吏ノ其根據ナキヲ信認シ及ヒ事實ニ於テ現ニ其障碍ナキ時ハ該官吏ハ更ニ顧慮スル所ナク其婚姻ヲ執行スルヲ得可クシテ官府ニ於テモ更ニ之ヲ處刑スルヲ無キモノトス但シ此件ニ就テハ後文ニ至リ復々論スル所アラントス

〔第六百十三〕 (三)婚姻ノ故障ニ存スル利益

凡ソ婚姻ハ法律上已ニ其諸般ノ禁止ヲ設爲セリ即チ婚姻取消ノ禁止及ヒ簡單ノ禁止是ニテ此禁止アルヲ知り故サラニ其婚姻ヲ執行セシ身分証書ノ官吏ハ直チニ其職任ヲ解カレ且ツ其損害ノ償ヒヲ爲ス可キモノトス加之場合ニ密リ罰金及ヒ禁錮ノ刑ヲ受ク可シトス

民法第百五十六條、第百五十七條及ヒ刑法第百九十三條、第百九十四條、第百

五九 又刑法第三百四十條ニ掲クル場合ニ在テハ有
 期ノ徒刑ニ處セラル可シ夫レ此ノ如ク己ニ其刑典
 ノ設ケアレハ法律上ニ定メタル婚姻ノ禁止ハ蓋シ之
 ヲ遵守セシムルニ足レルカ如シ然レモ又猶ホ盡サ
 ヲル所アリ何トナレハ身分証書ノ官吏ハ本人等ノ
 將サニ執行セントスル婚姻ニ於テ或ハ障礙ノ存ス
 ルヲ知ラス偶之ニ介スルト無シト謂フ可カラス然
 ラハ則チ身位ノ故ヲ以テ自^カカラ其障礙ノ存スルヲ
 知リタル者ハ之ヲ其官吏ニ告知スルヲ得可キノ制
 ヲ設ケサルヲ得ス然ラサレハ容易ニ其禁止ヲ犯ス
 ヲ得可キニ至ラン故ニ法律ニ於テ是等ノ者ニ預メ
 故障ヲ述フルノ權ヲ授ケ以テ其禁止ヲ遵守セシム
 ルハ蓋シ止ムヲ得サルノ要件タリ但シ取消ノ禁止
 ハ若シ之ニ背ク時ハ則チ其婚姻ヲ取消スト雖モ然
 レモ之ヲ罰センヨリ寧口之ヲ預防スルニ如カサル
 可シ

〔第六百十四〕 婚姻ノ故障ハ猶ホ他ニ利益スル所アレ
 ハ爰ニ之ヲ叙述センニ夫^カノ尊[○]属[○]親[○]ハ其卑[○]属[○]親[○]ノ婚
 姻ニ關シテハ素ヨリ其故障ヲ述フルノ全權ヲ有シ
 縱令其故障ノ由來スル所ノ趣意更ニ婚姻取消ノ禁

止又ハ簡單ノ禁止ヲ組織セサル時ト雖モ其故障ノ
 權ヲ行フヲ得可シ語ヲ轉シテ之ヲ言ヘハ凡ソ尊屬
 親ハ本人等カ有効ノ婚姻ヲ契約スルニ己ニ必要ノ
 條件及ヒ分限ヲ具有スル時ト雖モ猶ホ故障ヲ述フ
 ルヲ得可シトス但シ此ノ如キ時ニ當テ爲シタル故
 障ハ其卑屬親ヨリ之カ廢止ヲ訴フル時ハ固ヨリ其
 成効ナシト雖モ然レモ之カ爲メ特ニ訴訟ヲ爲サ、
 ルヲ得ス而シテ凡ソ訴訟ハ瞬時ニ之ヲ裁決スルモ
 ノニ非ス故ニ此ノ如キ故障ト雖モ其婚姻執行ヲシ
 テ稍遲緩セシムルノ効ヲ有ス而シテ時間ヲ遲緩セ

シムルノ利益ハ蓋シ小少ナラストス何トナレハ此
 婚姻ハ假令法ニ適スルト雖モ自身並ニ一族ニ於テ
 或ハ利益ヲ損スルヲ無キニ非レハ尊屬親ハ故障ヲ
 述フルノ間卑屬親ノ欲情之カ爲メニ制セラレ其卑
 屬親ヲ護スルニ於テ必要ノ時間ヲ得ルニ至ル可キ
 ヲ以テナリ抑人ノ欲情ヲ制止センニハ時間ヲ遲緩
 スルヲ以テ最モ其資ケト爲ス可キモノタリ

〔第六百十五〕

權ヲ有スル者ハ獨リ尊屬親ニ止マル可シ但シ傍系
 親總テノ傍系親ヲ指スニ非ス唯タ其二三ノ如キモ其
 者ニ限レリトス(第六百二十四)ヲ見ヨ

血属親ノ婚姻ニ於テハ其故障ヲ述フルヲ得可シト
雖モ是レ法律上ニ特○定○シ○タ○ル○二○三○ノ○場○合○ニ○限○レ○ル
モノニシテ左ニ記スル所ノ二個ノ取消ノ禁止中其
孰レニカ基由スルモノニ非サレハ聽用セラレサル
モノナリトス

其一 夫婦トナラントスル一方ノ者ノ幼年若ク
ハ治産ノ禁ヲ受ケシ者ニシテ其親族會議ノ承
諾ヲ得サル事

其二 夫婦トナラントスル一方ノ者ノ狂疾、癲疾
若クハ白痴ナル事(第六百二十
四)ヲ見ヨ

〔第六百十六〕 夫レ此ノ如シ故ニ尊属親ハ諸ノ場合ニ
於テ其卑属親ノ婚姻ニ故障ヲ述フルヲ得即チ卑属
親ノ行ハントスル婚姻ニ毫モ適法ノ障碍無キ時ト
雖モ其故障ヲ述フルヲ得可シ
傍系親ハ之ニ反シ二三ノ場合ニ非サレハ故障ヲ述
フルトヲ得ス故ニ(第一)其故障ノ根據スル所アル時
即チ適法ノ禁止ニ由來スル時ニ非サレハ更ニ其効
無キモノトス(第二)其故障ノ唯タ或ル法律上ノ禁止
ニ原由スルノミヲ以テ之ヲ聽ス可カラストス而シ
テ親族會議ノ承諾無キ事若クハ其本人ノ狂疾ニ原

由スルモノニアラサレハ更ニ其効ヲ生セサル可ク
 其他ノ障碍例ヘハ「アムピベルテ」又ハ前婚ヲ解除
 セサル事等ニ基由セシ故障ノ如キハ固ヨリ取消タ
 ル可クシテ更ニ其効無キモノトス

尊属親ト傍係親トノ間ニ此ノ如ク區別アルノ所以
 ハ容易ニ之ヲ解スルヲ得可シ他ナシ故障ノ權理ハ
 尊属親ニ在テハ如何ニ之ヲ擴張スルモ更ニ危害ヲ
 生セサルモノタリ何トナレハ其卑属親ヲ愛スルノ
 情厚キカ故ニ必ス其正實ヲ盡ス可キヲ保スルニ足
 レハナリ傍系親ニ至テハ然ラス蓋シ自身ノ利害ニ

關スル所アレハ若シ其故障ノ權理ニ制限ナキ時ハ
 或ハ正當ノ婚姻ヲ妨ケントスルノ恐レ無キニ非サ
 ルナリ

〔第六百十七〕然レ「親族會議」ノ承諾無キ事又ハ本人
 ノ狂疾ニ基由シ以テ其故障ヲ證明スルヲ得可キ傍
 系親ノ「アムピベルテ」前婚ヲ解除セサル事又ハ等
 親ノ如キ他ノ婚姻取消ノ禁止ニ由リ以テ之ヲ證ス
 ルヲ得サル如キハ蓋シ異ムニ足ル可シトス然ルニ
 之ヲ解ク者ノ曰ク若シ傍系親ニ許スニ容易ニ監査
 ス可カラサル取消ノ禁止ニ據リ其故障ヲ述フルノ

權ヲ以テスル時ハ蓋シ徒ラニ其親戚ノ婚姻ヲ妨クル者無シトス可カラス例ヘハ外國ニ於テ契約シタル其親戚ノ婚姻ノ尙ホ解除セサル丁ヲ口實トシ以テ故障ヲ述ヘシ時ハ之カ爲メ空シク時日ヲ費ヤスニ至ル可シト

此解釋ノ如キハ甚タ至當ノモノニアラス何トナレハ「アムピュベルテ」又ハ等親ノ如キモ狂疾ニ比シ更ニ監査シ難キニアラサルハ智者ヲ蒞テ後知ル可キモノニ非サルヲ以テナリ但シ其解釋ノ如何ヲ問ハス法律ハ己ニ瞭然明カナルモノナリ

〔第六百十八〕(四)適法ノ故障ヲ述フル權ヲ有スル者及

ヒ其原由

從第七十二條
至第七十五條

往古ノ法律ニ於テハ凡ソ何人ヲ論セス又何等ノ原由ニ基クヲ論セス總テ婚姻ニ故障ヲ述フルヲ得ルモノトシ而シテ其權理ニ若カク一定ノ制限ナキカ爲メ實際ニ於テ遂ニ無限ノ弊害ヲ生スルニ至リ即チ更ニ之ヲ言ヘハ人々互ニ殉私ノ欲心ヲ懷クヨリ動モスレハ他ノ婚姻ヲ妨害シ因テ大ニ國序ノ整頓ヲ紊亂スルニ至レリ故ニ「コード」編纂ノ委員ハ人ト原由トニ於ケル二個ノ關係ニ原キ以テ其故障ヲ述

フルノ權ヲ制限シ其弊害ヲ矯正セリ

(人ニ於ケル關係云々)故ニ其故障ヲ述フルノ權ハ方今ニ於テハ明晰至當ノ利益アル者ニシテ故障ヲ述ヘ以テ自カラ保護スルヲ要スル歟又ハ自然ノ愛情ニ基キ法律上ニ故障ヲ述フルヲ許ス所ノ或ル二三者ニ非サレハ敢テ之ヲ屬セサルモノトス

(原由ニ於ケル關係云々)故ニ其故障ヲ述フル者ハ之ヲ概言スルニ方今ハ唯々二三ノ漠然タル原由ニ基キ以テ其證據ヲ立ルヲ得ス即チ法律ニ特定セシ各種ノ原由中其一ニ據リ以テ其証據ヲ立ツルニ非サ

レハ敢テ故障ヲ述フルヲ得サルモノトス(第六百十七)及ヒ(第六百二十四)ヲ見ヨ

法律上ニ於テ此故障ヲ述フルノ權ヲ授クル者ハ左

ノ如シ第七百七第十二條

〔第六百十九〕 第一 夫婦タラント欲スル一方ノ者ト

曾テ婚姻ノ契約ヲ爲セシ者

凡ソ其配耦者ノ再婚ヲ結ハントスルノ意アルヲ推知スル夫又ハ婦ハ現ニ其夫婦タルノ名義ヲ衛護シ得ルヲ要スル者タルニ由レリ

〔第六百二十〕 第二 尊屬親即チ之ヲ詳言スレハ父若

シ父ノアラサル時ハ母又父母共ニ存セサル時
ハ祖父母第三百七十三條

(父ノアラサル時云々)此父ノアラサル時ノ數語ハ凡
ツ母ハ父ノ事ニ管セス更ニ其父タル權ヲ行ハサル
時ハ其父ニ代リ以テ故障ヲ述フルヲ得可シト爲ス
ノ意ヲ示セシモノニ非ス凡ソ法律ニ於テハ父ノ或
ハ死亡スル歟又ハ其意ヲ表スル能ハサル時ノミ其
故障ヲ述フルノ權ヲ母ニ移ス可シト爲スノ意ヲ示
セシモノナリ故ニ父ノ尙ホ生存シ且ツ其意ヲ表シ
能フ可キ時ノ如キハ母ハ敢テ適法ノ故障ヲ述フル

ノ權ヲ有セス唯タ好意ノ故障ヲ述フルノ權ヲ有ス
ルノミトス(第六百十
二)ヲ見ヨ

(父母共ニ存セサル時ハ祖父母云々)此語ハ詳カニ之
ヲ言ヘハ父母共ニ存セサル時ハ祖父若シ祖父ノア
ラサル時ハ祖母ト記ス可キモノトス何トナレハ故
障ヲ述フルノ權ハ父ノ存セサル時ニ非サレハ之ヲ
母ニ屬セサルモノタレハ父母ノ存セサル時ニ至リ
等シク之ヲ其祖父母ニ屬ス可キニ非ス然リ而シテ
此二個ノ場合ハ全ク相同シキモノナレハ若シ之ヲ
同一ニ爲サレハ前後相抵觸スルニ至ル可キニ因

ル故ニ故障ヲ述フルノ權ハ同系ノ祖父母ニ於テハ等シク之ヲ其祖父母ニ屬ス可キニ非ス即チ祖母ハ祖父ノ存セサル時ニ非サレハ敢テ此權ヲ企望スルヲ得サルモノトス然レモ兩系ノ祖父母ニ管スル時ハ之ト相異ナリ其權ヲ等シク其雙方ニ屬ス可ク故ニ此方ニ祖父アリ而シテ彼方ニ祖母アル時ハ其祖父母ハ並ニ故障ヲ述フルヲ得可キモノタリ要スルニ故障ヲ述フルノ權ニ管シテハ第四百九條及ヒ第五百十條ニ記スル婚姻ヲ承諾スル權ニ管スル順序ニ從ハサルヲ得サルモノトス

〔第六百二十一〕然レモ論者ノ一般ニ決定スル所ニ由レハ此方ノ祖父母ノ縱令己ニ其婚姻ヲ承諾スルモ彼方ノ祖父母ハ其婚姻ニ故障ヲ述フルヲ得可キモノトス何トナレハ其故障ヲ述フルノ權ハ現ニ等シク之ヲ其兩系ニ屬スレハ此方ニ於テ婚姻ヲ承諾セシカ爲メ敢テ間接ニ彼方ノ權ヲ失ハシムルヲ得サルニ因ル然レモ其婚姻ハ己ニ一方ノ承諾アリシモノタレハ其故障ヲ述フル者ハ唯タ其承諾アラサル事ノミヲ以テ原由トシ其他更ニ適法ノ障礙ニ因由スルニ非サレハ其故障ハ到底之ヲ解除セラル可キ

モノタリ但シ此ノ如キ故障ト雖モ蓋シ較不適當ナル婚姻ノ執行ヲ暫時停止スル効ニ於テハ常ニ之ヲ有スルモノトス

〔第六百二十三〕 若シ又祖父母ノアラサル時ハ此故障ヲ述フル權ノ曾祖父母ニ移ル可キハ敢テ言ヲ竝タサルモノトス故ニ現ニ傍系ノ親ヲシテ此權ヲ行ハシムルハ尊屬親ノ全ク存セサル時ノミニ限ル可キモノタリ 第四百七十四條

〔第六百二十三〕 爰ニ又注意ヲ要ス可キハ凡ソ尊屬親ハ其卑屬親ノ己ニ承諾ヲ得ス以テ結婚スルヲ得可

キ年齢ニ至リシト否トヲ問ハス常ニ故障ヲ述フルヲ得可キニ在レ且又其承諾ヲ要セサル年齢ニ至リシト否トニ就テ更ニ自カラ其區別アレハ此ニ之ヲ畧言スルニ卑屬親ノ承諾ヲ要スル場合ニ於テハ其尊屬親ハ縱令其故障ノ解除ヲ訴ヘラル、モ唯々其承諾ヲ肯セサル一事由ニ就キ以テ其故障ヲ維持スルヲ得可ク故ニ然ル時ハ將サニ言ハントス曰ク此婚姻ハ素ト余ノ承諾スルヲ欲セサルカ爲メ余ハ其故障ヲ述フ、ト然レ且卑屬親ノ承諾ヲ要セサル場合ニ至テハ之ニ反シ其卑屬親ハ己ニ尊屬親ノ意思ニ

管セス婚姻ヲ行フ可キノ權ヲ有スレハ尊屬親ハ最早若カキ理由ニ原キ以テ其故障ヲ維持スルヲ得ス故ニ尊屬親ハ其承諾ヲ肯セサルヨリ以外ノ事由ニ就キ更ニ適法ノ障礙ニ因由スル故障ノ趣意ヲ辨明セサル可カラス若シ然ラサランニハ其故障ハ解除セラル可キモノタリ

〔第六百二十四〕 第三 傍系親但シ兄弟姉妹、伯叔父母、

從兄弟姉妹タル可シ第七百七十四條

爰ニ注意ヲ要ス可キハ下ニ記スル各件ニアリトス

其一 故障ヲ述フルノ權ハ左ノ場合ニ非サレハ

傍系親ニ移ラサル事

第一 尊屬親ノ全ク存セサル時

第二 傍系親ノ丁年タル時

其二 傍系親ハ法律上ニ特定シタル左ノ二個ノ

場合ニ非サレハ故障ヲ述フルヲ得サル事

第一 第六十條ニ必要タルヲ定メシ親屬會

議ノ承諾ヲ得サル時

然レ凡人或ハ曰ク斯ノ如キ場合ニ於ケル故障ハ敢テ之ヲ述フルヲ要セサルモノトス何トナレハ後見ヲ免レサル幼者ノ如キハ其親族會議ノ承諾ノ證書

ヲ携帯スルニ非サレハ到底婚姻ヲ行フヲ得サルカ
 故ニ此ノ如キ場合ニ於テ故障ヲ述フルハ全ク無益
 ニ属ス可シト因テ思フニ通常ノ場合ニ於テハ此言
 誠ニ當サニ然ルヘキモノト雖モ或ハ幼年者ノ其出
 産證書ヲ偽造シ以テ之ヲ身分證書ノ官吏ニ示シ其
 官吏ヲシテ丁年者タルヲ信認セシムル歟又ハ親族
 會議ノ承諾ヲ記セシ贋造ノ證書ヲ其官吏ニ示シ以
 テ其婚姻ヲ執行セシムルカ如キモ亦得テ知ル可カ
 ラサルモノタリ是レ此方法ヲ制定シ以テ其預防ニ
 供スル所以ナリ

第二 夫婦タラントスル者ノ狂疾ナル時

此場合ニ於テ其故障ヲ述フル者ハ本人ヲシテ治産
 ノ禁ヲ受ケシムル爲メ裁判所ニ於テ定ムル期限内
 ニ先ツ其訴ヲ爲シ而シテ之ヲ審判セシメシ後ニ非
 サレハ其故障ヲ受理セラレサルモノトス

〔第六百二十五〕 此項ハ特ニ詳カニ分解ヲ要スルモノ
 ナレハ更ニ之ヲ釋明スルニ本項ノ意ハ狂[○]癲[○]ニ原由
 スル故障ハ其之ヲ述フル者ノ同時ニ治産ノ禁ヲ訴
 フルニ非サレハ身分證書ノ官吏其故障ヲ重要ノモ
 ノト爲スニ及ハサルヲ云フニ非ス現ニ故障ヲ述フ

ル者ハ必ス其故障ノ趣意ヲ証明スルヲ要セサレハ先ツ其故障ヲ陳述シ以テ其結局ノ如何ヲ待ツ可ク而シテ身分証書ノ官吏モ亦其結局ノ如何ヲ待ツ可シ然ル時ハ必ス左ノ二件中必ス其一ニ歸決ス可キナリ

其一 故障ヲ申述セラレシ本人ヨリ更ニ之ヲ辨論セサル時ハ其黙止セシ一事ヲ以テ其故障ノ原因アル証トス可シ此時ハ故障ヲ述フル者ハ更ニ何事モ之ヲ証明スルニ及ハサルモノタリ
其二 若シ之レニ反シ本人ヨリ其故障防止ノ訟

求ヲ爲セシ時ハ其故障ヲ述ヘシ者ハ其原由アル所以ヲ証明セサルヲ得ス此時其故障ノ申述者ニ取り裁判所ヨリ與フル期限内ニ治産ノ禁ヲ訴出シ及ヒ之ヲ審判セシメサル可カラサルノ義務ヲ生ス

且ツ裁判所ニ於テハ若シ其故障ノ根據ナキヲ思量スル時ハ直チニ之ヲ止ムルヲ得可キモノトス

〔第六百二十六〕 今此段ヲ結フニ付キ爰ニ注意ス可キハ第七十四條ニ記スル傍系親ハ尊屬親ト異ナリ總テ同等ノ權理ヲ有ス可キモノナレハ其夫婦タラ

ントスル者ノ從。兄弟ハ假令其兄弟ニ於テ故障ヲ述
フルヲ得可キ場合ニ際シ之ヲ述ヘサル時ト雖モ其
故障ヲ述フルヲ得可キモノタルニ在リ

〔第六百二十七〕 第四

後見人又ハ管財人〔但シ後見人

又ハ管財人ハ其職務ヲ行フ時間親族會議ノ許

諾ヲ得且ツ傍系親ニ故障ヲ述フルヲ許セシニ。

個ノ場合ニ非サレハ其故障ヲ述フルヲ得ス第百

第七十五條

(二)個ノ場合云々(詳カニ之ヲ言ヘハ(第一)親族會議ノ

承諾ヲ得サル時(第二)夫婦タラントスル本人ノ狂疾

ナル時ヲ云フ

然レ此第二ノ場合ハ之ヲ適用ス可キ所ナキニ似

タルモノトス現ニ左ノ二件中必ス其孰レニカ歸決

ス可キモノタリ他ナシ其一ハ親族會議ノ婚姻ヲ承

諾セサル時ニシテ即チ此第一ノ場合タレハ後見人

ハ其承諾ノアラサルヲ原由トシ以テ其婚姻ニ故

障ヲ述フルヲ得可ク又一ハ之ニ反シ親族會議ノ婚

姻ヲ承諾シタル時ハ其後ニ至リ更ニ復タ後見人ニ

之カ故障ヲ述フルヲ許スノ理ナシ然リ而シテ若シ

其承諾ノ誤リタルヲ認知スル時ハ敢テ本人ノ狂疾

ヲ原由ト爲サンヨリ寧ロ其承諾ヲ取消シ更ニ承諾
 ノアラサルトヲ原由トシ以テ其婚姻ニ故障ヲ述フ
 ルノ簡單ナルニ如カサル可シ
 然レ氏爰ニ此法ノ設ケアル所以ヲ辯明ス可キ爲メ
 左ニ其一例ヲ掲ケントス
 親族會議ニ於テハ己ニ婚姻ヲ承諾セシニ後見人ハ
 却テ幼者ノ能力ヲ識認スルヲ以テ乃チ其會議ノ決
 定ヲ排撃シテ曰ク諸君ノ承諾セシハ誤リナリ諸君
 ノ親戚ハ婚姻ヲ行ハソ實ニ婚姻ヲ行フ可キ分限ニ
 非ス其精神既ニ錯亂セシ者ナリト然ルニ親族會議

ニ於テハ尙ホ之ヲ疑フカ爲メ容易ニ其承諾ヲ取消
 スヲ欲セス乃チ後見人ニ答ヘテ曰ク君ハ彼レノ精
 神實ニ錯亂セリト謂フ乎果シテ然ラハ其婚姻ニ故
 障ヲ述フ可ク我輩將サニ之ヲ君ニ許サントス然レ
 氏君ハ盡ク其責ニ任ス可シト
 又私生ノ子ノ婚姻ニ付キ其別段ノ後見人已ニ之ヲ
 承諾セシ時第五百九條親族會議ニ於テ其通常ノ後見人
 ニ許スニ本人ノ狂疾ヲ原由トシ其婚姻ニ故障ヲ述
 フ可キヲ以テスルノ場合アリ

〔第六百二十八〕凡ソ後見人ハ傍系親ト同シク尊屬親

ノ。全ク。存セサル時ニ非サレハ其幼者ノ婚姻ニ故障
ヲ述フルヲ得サルモノトス第百七十四條及ヒ第百七十五條參考蓋シ
後見人ハ第百七十四條ニ記スル傍系親ト共ニ此權
ヲ屬セラル、モノタリ

〔第六百二十九〕 上ニ歴叙セシカ如ク凡ソ法律ニ於テ

婚姻ニ故障ヲ述ルノ權ヲ授クル者ハ其類四アリ即
チ左ノ如シ

第一 再婚ヲ契約セントスル者ノ配耦者

第二 尊屬親

第三 傍系親ノ中兄弟、姉妹、伯叔父母、從兄弟、姉妹

第四 後見人及ヒ管財人

故ニ婚姻ノ故障ヲ述フルヲ得ル者ハ右ニ記列セシ
所ヲ以テ其限リトス抑「ゴード」ニ於テ故障ヲ述フル
ノ權ヲ唯タ二三ノ者ノミニ授クルノ必要タルヲ思量
セシハ畢竟其因テ以テ生スル所ノ諸般ノ弊害ヲ預
防セント欲セシニ在ルヤ既ニ吾人ノ知得スル所ノ
如シ（第六百十八）ヲ見ヨ故ニ法律上ニ明記セシ者ニ非サレハ
縱令何人ト雖モ此權ヲ有セサルモノタリ即チ左ニ
記スル者ノ如キハ之ヲ有セサルモノトス

第一 姻屬親

最近ノ者ト雖モ亦同シ

第二 卑屬親

男女ノ別ナク凡ソ子タル者ヨリ其父母ノ婚姻ニ故障ヲ述フルハ要スルニ之ヲ尊敬ス可キノ趣意ニ牴觸スルモノトス

第三 甥姪

亦前ト同一ノ理由ニ原クモノニシテ現ニ伯叔父母ハ父母ノ代員ニ充ツ可キモノタリ

第四 檢官

〔第六百三十〕(五)故障ヲ述フル法式○故障ヲ述フル證

書 第七十六條及第六十六條

凡ソ故障ハ「エクスプロワ、ド、ウイッシエー」使吏ノ振ヲ要スル証書ヲ以テ申述ス可ク而シテ此証書ハ諸般ノ公証書ニ於ケル通例ノ法式ニ從フ可キモノナレハ其故障ヲ述フル者又ハ別段公正ノ書ヲ以テ任シタル名代人其正本及ヒ副本ニ姓名ヲ手署ス可シ是レ他ナシ或ハ故サラニ假名ヲ設ケ以テ徒ラニ他ノ婚姻ヲ妨阻セントスル者アルヲ防止センカ爲メナリ

〔第六百三十一〕婚姻ノ故障ヲ述フル証書ニ記ス可キ

事項

婚姻ノ故障ヲ述フル証書ニハ左ノ諸項ヲ記入ス可

シ

第一 故障ヲ述フル者ノ分限及ヒ故障ヲ述フル

理由

是レ一ニハ夫婦タラントスル者ヲシテ何人ノ何故ニ其婚姻ニ故障ヲ述フルカヲ知ラシメ又一ニハ身分証書ノ官吏ニ其証書ヲ一閱シ以テ其故障ノ法ニ適セシモノタルヤ又ハ之ニ管セサルモ敢テ危殆ノ事ナキヤ否ヲ直チニ検査シ能ハシム可キカ爲メナリ(第六百十但シ尊属親ハ其証書ニ其故障ヲ述フルノ理由ヲ表示スルニ及ハサルモノトス

爰ニ又注意ヲ要ス可キハ凡ソ夫婦タラントスル者ノ其婚姻ニ管シ猶ホ幼年タル場合ニ就テハ其尊属親ノ其故障ヲ述フル証書ニ於ケルモ又ハ其故障解除ノ訴訟ヲ受理セシ裁判所ニ於ケルモ並ニ其故障ノ理由ヲ証明スルニ及ハストス又之レニ反シ夫婦タラントスル者ノ已ニ自カラ婚姻ヲ契約スルニ適當ナル年齢ニ至リシ時ハ其故障ヲ述フル尊属親ハ其故障ヲ述フル証書ニハ猶ホ其理由ヲ記スニ及ハサレ氏若シ其夫婦タラントスル者ノ故障解除ノ訴ヲ爲シタル時ハ法律上婚姻ノ障碍アルニ因リ止ムヲ

得ス其故障ヲ述フル旨ヲ辯解スルニ非サレハ其故障ヲ維持スルヲ得サルモノトス(第六百十四)及ヒ(第六百二十三)ヲ見ヨ

第二 婚姻ヲ行ハントスル地ニ故障ヲ述フル者

ノ別段住所ヲ撰ミシ事

此住所ヲ撰ムノ所以ハ其夫婦タラントスル者ノ其故障ヲ排撃シ因テ其解除ノ訟求ヲ爲サントスル時或ハ遠隔ノ地ニ赴カサランヲ要スルニ在リ畢竟其遠隔ノ地ニ赴ク時ハ其婚姻ヲ遷延スルニ至ラシムルノ虞アルモノトス

〔第六百三十二〕爰ニ一箇ノ難事アリ即チ他ニアラス

凡ソ故障ヲ述フル者ハ婚姻ヲ行フ地ニ其住所ヲ擇マサルヲ得サルモノトスレトモ婚姻ハ管ニ二箇所ノ邑ニ於テ之ヲ行フヲ得可キノミナラス時トシテ四箇所ノ邑中其何レニ於ケルモ等シク之ヲ行フヲ得可シ然ルニ法律上ニハ故障ヲ述フル者唯タ一箇所ニ其住所ヲ撰ムヲ要スルニ過キサレハ是等各所ノ邑ニ於テ皆ナ其住所ヲ擇マサルヲ得サルニ非ス然ラハ則チ其何レノ地ニ之ヲ擇ム可キヤト是ナリ因テ思フニ若シ本人等其婚姻ノ公告書ニ其婚姻ヲ行ハントスル邑ヲ明示セシ時ハ其明示セシ地ニ其

住所ヲ擇ム可ク若シ或ハ然ラサル時ハ其婚姻ヲ行
フヲ得可キ邑中ノ一箇所ニ之ヲ擇ムヲ得可シ是レ
其故障ヲ述フル者ハ婚姻執行ノ地ノ分明ナラサル
カ爲メ敢テ其妨害ヲ受ク可キニ非サルニ因レリ

〔第六百三十三〕

若シ故障ノ証書ニ其之ヲ述フル者ノ

身分及ヒ其原由並ニ婚姻ヲ行フ地ニ住所ヲ擇ミシ
事等ヲ記入セサル時ハ其故障ヲ無効ノモノトナシ
而シテ其証書ニ署名セシ使吏ハ其職務ヲ停止セラ
ル可キモノトス

〔第六百三十四〕

若シ其証書ニ故障ヲ述フル者ノ署名

ナキ時ハ亦其故障ヲ無効ノモノト爲ス可キヤ吾人
ハ等シク之ヲ無効ニ歸ス可キモノトス然レモ此ノ
如キハ敢テ法律上ニ明示セシ所ニ非ス且ツ凡ソ証
書ヲ無効ノモノト爲スカ如キ必ス法律上ニ明文ア
ルヲ要シ而シテ其法律上ニ明文ナキニ漫リニ之ヲ
補足スルハ原來訴訟法ノ禁スル所ト雖モ
訴訟法第千〇三十條
凡ソ法律上ニ某ノ証書ハ其本人ノ之ニ署名ス可キ
ヲ要スル時ノ如キ其署名ハ畢竟其証書ヲ完成スル
ニ一太緊要ノ素質タルカ故ニ若シ之ヲ欠キシ時ハ
其証書ハ法律上ヨリ之ヲ觀レハ固ト敢テ成立ツ可

キニ非サルモノタリ

〔第六百三十五〕 凡ソ故障ノ証書ハ何人ニ之ヲ送達ス

可キモノナル乎 第六十
六條

故障ノ証書ハ左ニ記スル者ニ之ヲ送達ス可シ

第一 (本人)詳カニ之ヲ言ヘハ一ハ夫婦トナラン

トスル者ノ中其故障ヲ申述セラレシ一方ノ者

是レ其者ヲシテ速カニ其故障ヲ排撃セシメ而

シテ其故障ヲ解除ス可キノ理由アル時ハ之ニ

其裁判言渡ヲ得セシム可キカ爲メナリ又一ハ

故障ヲ申述セラレシ者ノ配耦者トナル可キ者

是レ其者ハ其將ニ行ハントスル婚姻ニ障碍ア

ルヲ知ラサル可カラサルカ爲メナリ

第二 身分証書ノ官吏是レ其故障ヲ解除セシ裁

判言渡ヲ此官吏ニ示サ、ル間ハ之ヲシテ其婚

姻ノ執行ヲ肯セサラシム可キカ爲メナリ

〔第六百三十六〕 然ルニ其故障ノ証書ハ何レノ身分証

書ノ官吏ニ之ヲ送達ス可キモノナルヤ抑婚姻執行

ノ爲メ適當ナル身分証書ノ官吏ハ時トシテ或ハ四

員アルトアレハ此時ニ方テハ其何レノ官吏ニ其証

書ヲ送達ス可キモノナルヤ法律上更ニ明示スル所

ナシト雖モ蓋シ此事ニ於ケルモ亦住所ノ擇定ニ付
 キ前ニ記セシ所ヲ適用ス可シ故ニ婚姻公告ノ証書
 ニ若シ其婚姻ヲ行フ可キ邑ヲ指示セシ時ハ其故障
 ヲ述フル証書ハ其邑ニ於ケル身分證書ノ官吏ニ之
 ヲ送達スルヲ以テ足ルモノトシ又然ラサル場合ニ
 於テハ其婚姻ヲ行フヲ得可キ邑ノ官吏中其孰レニ
 於ケルモ法ニ適シテ之ヲ送達スルヲ得可キモノト
 ス因テ更ニ之ヲ言フニ凡ソ故障ヲ述フル証書ハ該
 官吏ノ中其一人ニ之ヲ送達スル時ハ已ニ充分ノモ
 ノトス可ク何トナレハ該官吏ノ中其婚姻ノ執行ニ

管ス可キ者ハ其婚姻ヲ公告セシ各邑ニ於ケル身分
 證書ノ官吏ヨリ故障ヲ述フル者ナキ旨ヲ証スル爲
 メ其本人ニ渡シタル保証書(第五百八十八)ヲ檢閲セシ
 上ニ非サレハ之ヲ執行ス可カラサルモノナレハ其
 故障ノ有無ハ必ス之ヲ知得ス可キニ因レリ但シ其
 保証書ヲ渡セシ後ニ若シ故障ヲ述ヘント欲スル時
 ハ其婚姻ヲ執行スルヲ得可キ各所ノ身分證書ノ官
 吏ニ其証書ヲ送達セサルヲ得サルモノトス

〔第六百三十七〕故障ヲ述フル証書ノ送達ヲ得タル身

分証書ノ官吏ノ行フ可キ所爲第六十七條

法律上身分証書ノ官吏ニ要スル所ノモノ左ノ如シ

第一 身分証書ノ官吏ハ故障ヲ述フル証書ノ本

書ニ其檢印ヲ捺ス可シ

此檢印ヲ捺スルノ趣意ハ日後或ハ二人ノ民生官吏ノ間ニ於ケル申立テノ相牴牾スルヲ預防ス可キカ爲メナリ然リ而シテ此ニ若カキ牴牾ヲ預防スル所以ハ凡ソ身分証書ノ官吏ハ其實其執行ス可キ婚姻ニ故障ヲ述フル者アルヲ知ルト雖モ先ツ之ヲ執行シ然ル後ニ偽テ其故障ノ証書ヲ已レニ送達セサル旨ヲ申立ルカ如キモ亦敢テ爲シ得サルニ非ス而シ

テ其申立ハ當時其証書ヲ送達セシ旨ヲ述フル使吏ノ申立ト共ニ等シク信據ス可キ効力アルモノタリ何トナレハ身分証書ノ官吏ト使吏トハ共ニ等シク民生官吏タレハ其立ル所ノ証據ハ法律上ヨリ之ヲ觀レハ互ニ均一ノ權力ヲ有スルモノタルカ故ナリ然ルニ使吏ノ藏置スル本書ニ斯ク身分証書ノ官吏ノ檢印ヲ捺セシ時ハ斯ノ如キ牴牾ハ必ス之ヲ預防スルヲ得可キモノタリ

然レ凡本人ノ如キハ其故障ノ証書ノ送達ヲ得タル時之ニ檢印ヲ捺スルニ及ハサルモノトス何トナレ

ハ凡ソ本人ハ常ニ其捺印ヲ拒ム可キニ因リ假令法律上ニ之ヲ要スルモ得テ行ハル可キニ非ス且ツ前ニ記セシカ如キ牴牾モ亦敢テ恐ルヽニ足ラサルニ困レリ

第二 身分証書ノ官吏ハ遅延ナク婚姻公告ノ簿冊ニ故障ノ申立ヲ簡略ニ記入ス可シ

此記入ヲ要スルノ所以ハ身分証書官吏ノ或ハ其送達ヲ得タル証書ノ寫ヲ失フニ至ルモ其故障ノ申立ハ決シテ之ヲ遺忘スルニ至ラシメサルカ爲メナリ

〔第六百三十八〕

(六)故障ニ由テ生スル効

第六十八條

適法ノ故障即チ之ヲ詳言スレハ法律上ニ定メタル法式ニ循ヒ其分限ヲ有スルモノヨリ法律上ニ定ムル原由ニ據リ以テ述フル所ノ故障ヲ云ヒ而シテ此故障ハ其婚姻ノ執行ヲ止ムルノ効アルモノタリ故ニ故障ノ証書ヲ受取リシ身分証書ノ官吏ハ更ニ其故障ヲ解除セシ証書ヲ指示セラレサルノ間ハ之ヲ貴重セサルヲ得サルニ因リ漫リニ其故障ヲ審定シ而シテ其故障ヲ述フル者ノ其証書ニ記セシ分限ノ偽リタル事又ハ其証書ニ示セシ原由ノ眞正タラサル事等ヲ辭柄ト爲シ以テ其婚姻ヲ執行スルヲ得サ

ルモノトス而シテ若シ之ニ背ク時ハ三百フランノ
罰金ヲ課セラレ及ヒ其總テノ損害ヲ償フ可ク而シ
テ又此刑ハ日後或ハ其故障ヲ述フル者ノ果シテ其
分限ヲ偽リ及ヒ其申述セシ原由ノ更ニ根據ナキ明
証ヲ得ルニ至ルモ猶ホ之ヲ免カル、ヲ得サルモノ
トス

〔第六百三十九〕 然ルニ若シ法律上ニ定ムル法式ニ由
ラス又ハ其法式ニ循フモ其分限ナキ者ノ述ヘタル
故障又ハ第七十四條ニ記セシ原由ト全ク相異ナ
ル原由ニ據リ尊屬親ニ非サル者ノ述ヘタル故障ノ

如キハ如何ニ之ヲ決ス可キ乎身分証書ノ官吏ハ此
場合ニ於ケルモ猶ホ其故障ヲ解除セシ証書ヲ定規
ノ如ク指示セラル、ニ至ル迄ハ其婚姻ノ執行ヲ止
メサル可カラサル乎而シテ若シ之ニ背ク時ハ第六
十八條ニ定ムル二個ノ刑ヲ受ク可キ乎又日後縱令
其故障ノ偽リタルト其不規則タルトノ証ヲ得ルニ
至ルモ猶ホ其刑ニ免ル可カラサル乎是レ實ニ至重
ノ論題ナリ

然リ而シテ我往古ノ斷例ニ於テハ「キユレ」ハ僧官ニ
ヲ扱ヒ假令不規則ノ故障ト雖モ之ヲ貴重ス可キモ
シ者

ノトセリ故ニ若シ之ニ背ク時ハ總テ其責ニ任ス可
キモノタリキ

然ルニ中葉ノ法律ニ至リ之ニ反スル本主義ヲ定メ
タリ他無シ千七百六十二年九月二十日ノ法律ニ曰
ク凡ソ法律上ニ示定セシ場合ト法式トニ因ラス及
ヒ其分限アル者ニ非サル他ノ各人ヨリ述ヘタル故
障ハ元來之ヲ故障ナキモノト看做シ身分証書ノ官
吏ハ其婚姻ヲ執行スルトヲ得可シト是ナリ

〔第六百四十〕而シテ今此二個ノ規則中ニ就キ「コード」

ニ於テハ其孰レヲ収用セシモノタル乎著書家中多

クハ第一ノ制規ヲ収用セシヲ主張スルモノアレト
余ハ斷然將サニ言ハントス曰ク第二ノ制規ヲ収用
セシモノナリト因テ此ニ之ヲ言フニ夫ノ往古ノ斷
例ニ於ケル規則ハ意フニ親族ヲシテ互ニ和熟ノ情
ヲ失ハシムルノ原因タル可ク故ニ最モ憎忌ス可キ
モノタレハ千七百六十二年九月二十日ノ法律ニ因
リ故障ヲ述フルノ權理ヲ制限シ以テ唯々二三ノ
ミニ之ヲ屬シ且ツ其二三ノ中或者ノ爲メニハ別
段定メシ原由ニ據ルニ非サレハ故障ヲ述フルヲ許
サハル旨ヲ定メシモノニシテ即チ此法律ハ往古ノ斷

例ノ弊害ヲ止メント欲セシニ出テシモノタル己ニ
 吾人ノ知ル所ノ如シ然リ而シテ「コード」ノ精神タル
 原來亦此法律ト同一ノモノタレハ(第六百十五、第六
 百十八)獨リ此論題ニ管シ何ソ往古ノ法律ニ於ケル
 ヲ見ヨヲ論趣ヲ取用スルノ理アラシヤ且ツ「コード」ニ於テハ
 此論趣ヨリ生ス可キ弊害ヲ知リ以テ之ヲ矯正セン
 トセシモノタレハ又何ソ其論趣ノ基礎タル本主義
 ヲ取用スルノ理アラシヤ况ヤ法律ノ特リ此點ニ管
 シ前後相齟齬スルカ如キ「アル」可ケンヤ故ニ當時
 立法者ノ意ハ若シ此故障ヲ述フルノ權理ニ更ニ之

カ制限ヲ立テサレハ必ス弊害ノ生ス可キヲ思ヒ因
 テ人ト趣意トノ二點ニ管シテ其限界ヲ設ケ以テ婚
 姻ヲシテ自由ナラシメ其弊害ヲ矯正セント爲セシ
 モノタル可シ然ルニ何ソ其立法者ノ其同法律中ニ
 於テ全ク相反スル制規ヲ設ケ以テ婚姻ヲ妨阻スル
 カ如キ「アラシヤ」而シテ若シ或ハ之レアリトセハ
 眞ニ奇異ノ法律タル可ク因テ爰ニ之ヲ辯明スルニ
 或ハ曰ク凡ソ故障ヲ述フルノ權ハ獨リ二三ノ者ノミ
 ニ之ヲ屈ス可ク而シテ其他ノ者ノ爲シタル故障モ
 亦同一ノ効ヲ有ス可シト蓋シ此ノ如クナル時ハ宛

モ猶ホ故障ヲ述フルノ權ハ唯タ二。三。者ノミニ之ヲ
 属スレト又總テノ者ニ之ヲ属ス可ク又傍系親ハ二。
 三。ノ原因ニ據ルニ非サレハ故障ヲ述フルヲ得サレ
 他ノ原因ニ據リ爲シタル故障モ亦全ク其效ヲ有
 ス可シト云フモノ、如シ故ニ其故障ヲ述フルノ權
 ハ同時ニ限制セラレ且ツ限制セラレサルモノタル
 可シ

而シテ今余カ上文ニ排撃セシ對手ノ説ハ全ク第六
 十八條ノ法文ニ據ルモノタレハ其言ニ曰ク第六十
 八條ニ「故障ヲ述フル者アル時ハ身分証書ノ官吏ハ

云々其婚姻ヲ執行ス可カラサルノ文ヲ載セ而シテ
 其故障ヲ述フル者アル時ノ數語ハ更ニ區別スル所
 ナク一般完全ノ者ナレハ凡ソ故障ハ何人ヨリ之ヲ
 述フルモ又法律上明許セシ原因ニ據ラサルモ總テ
 貴重セサル可カラス」ト

然レトモ余ハ第一千百五十六條ニ原キ以テ其言ニ答ヘ
 シトス曰ク凡ソ法律ヲ辯明セントスルニハ其真意
 即チ立法者ノ本意ヲ講究ス可ク獨リ其文詞ノミニ
 拘泥ス可カラス」ト
 而シテ又其故障ヲ述フル者アル時ノ數語ハ縱令之

ヲ文法上ニ於テ論スルモ敢テ一般完全ノ意アルニ
 非サルモノタリ何トナレハ之ヲ總テノ故障ト解ス
 ルモ又ハ單ニ規則ニ適セシ故障ト解スルモ讀者ノ
 意ヲ以テスルヲ得可キカ爲メナリ故ニ此論ハ到底
 之ヲ不定ノモノタラシメサル可カラズ現ニ其故障
 ノ語ニ其意義ヲ限定スル規則ニ適セシノ定語ヲ加
 ヘサレモ亦之ヲ一般ナラシム可キ爲メ總テノ語ヲ
 モ附加セサルヲ以テナリ

然リ而シテ余カ對手ノ説ニ於ケルモ亦自カラ之ヲ
 區別セサルニ非ス故ニ全ク規則ニ適セサル故障例

ヘハ簡單ノ書面ヲ以テ爲シタル故障若クハ婚姻取
 消ノ障碍又ハ簡單ノ障碍ヲモ組成セサル原因ニ據
 リ爲シタル故障ニ管セシ時ノ如キハ之ヲ貴重セサ
 ル民生官吏ヲシテ第六十八條ニ定メシ二個ノ刑ヲ
 受ケシム可カラサルモノトセリ是ニ由テ之ヲ觀レ
 ハ彼等ニ於ケルモ業ニ已ニ此故障ヲ述フル者アル
 時ノ數語ハ其之ニ附セシカ如キ一般ノ意義ヲ有ス
 ルニ非サルハ之ヲ認定セシモノナリ
 故ニ故障ハ之ヲ述フルヲ得可キ分限ヲ有セサル者
 又ハ其分限ヲ有スルモ法律上ニ定ムル場合ニ由ラ

ス若クハ法律上ニ要スル法式ニ由ラサル時ハ畢竟不。適。法。ノ故障タルニ過キサレハ然ル時ハ適法ノ故障ヲ貴重セサル民生官吏ノ爲メ法律上ニ定ムル刑典ヲ隨帶セシム可カラサルモノタリ

〔第六百四十一〕且ツ假令規則ニ適セシ故障ト雖モ若シ其原由タル一箇ノ趣意ナキ時其故障ニ管セス執行セシ婚姻ノ自餘諸般ノ要件ヲ具フルニ於テハ敢テ其效ヲ失ハシム可キニ非サレハ己ニ論者ノ異議セサル所タレハ要スルニ故障ハ之ヲ其趣意ト相離分スル時ハ管ニ簡單ノ障碍ヲ組成スルノミニ過キ

サルモノタリ

〔第六百四十二〕

(七)婚姻ノ故障ヲ解除スル証書

從第百七十七條

條至第百七十九條

婚姻ノ故障ヲ解除スル証書トハ其故障ヲ述ヘタル者ノ自カラ之ヲ解除シ管テ其申述セシ婚姻ノ障碍ヲ除去スル所ノ証書ヲ云フ

凡ソ婚姻ノ故障ハ其故障ヲ述ヘシ者ノ隨意ニ之ヲ解除スルトアリ又ハ裁判ニ因リ之ヲ解除スルトアリ

而シテ其隨意ニ故障ヲ解除スル時ハ更ニ一箇ノ法

式モ之ヲ要セサルモノタレハ或ハ公正ノ証書ヲ以テ之ヲ解除スルモ又ハ本人及ヒ身分証書ノ官吏ニ其故障ヲ解除セシ旨ヲ通知スルモ又ハ更ニ其婚姻ヲ了諾スルモ總テ其故障ヲ述ヘシ者ノ隨意タル可キモノタリ

然レモ若シ故障ヲ述ヘシ者ノ其故障ヲ主張シ止マサル時ハ其故障ヲ申述セラレシ本人ヨリ其解除ヲ裁判所ニ請求スルヲ得可ク而シテ裁判所ニ於テハ其故障ノ規則ニ適スルト否ト其故障ノ原由アルト否トニ從ヒ以テ之カ聽否ヲ決ス可キモノタリ

又身分証書ノ官吏ハ故障ヲ解除セシ裁判言渡書ノ副本ヲ受取り嘗テ其故障ヲ登記セシ簿冊ノ端ニ之

ヲ記入ス可キモノトス 第六十七條

又故障解除ノ請求ヲ爲セシ原告人ハ其故障ヲ述ヘシ者ノ通常ノ住所ニ於ケル裁判所ニ之ヲ訴フルモ又ハ故障ヲ述フル爲メ其特ニ擇ミシ住所ノ裁判所ニ之ヲ訴フルモ共ニ其隨意タル可キモノトス (第六十一)及ヒ(第三百四十八)ヲ見ヨ

又故障ヲ解除スル爲メノ請求ハ總テ至急ヲ要スルモノナレハ因テ以テ左ニ記スル如キ二個ノ成果ヲ

生スルニ至ル可キモノタリ

第一 其訴訟ハ總テ勸解ノ式ヲ行フニ及ハサル

事 訴訟法第四十
九條ノ第二項

第二 初告裁判所ニ於テハ故障ヲ解除スル爲メ

ノ訟求ヲ十日内ニ裁判ス可ク而シテ若シ其裁
判ヲ控訴セシ時ハ控訴廳ニ於テモ亦十日内ニ
之ヲ裁判ス可キ事

然レモ初告裁判所及ヒ控訴廳ニ於テ此十日内ニ裁
判セサル可カラサルノ義務ハ稍節制ノ意ヲ包含ス
ルモノト爲シ以テ之ヲ解セサル可カラス何トナレ

ハ凡ソ法律ハ敢テ其爲シ難キ所爲ヲ強テ要スルモ
ノニ非サレハ其訴訟ヲ受理セシ裁判所ハ必ス確定
ノ。裁判言渡ヲ以テ其故障ノ適否ヲ審判ス可ク然ラ
サレハ其責ニ任ス可シト爲スニ非ス現ニ其故障ノ
原因中間此ノ如キ短期内ニ裁判ヲ爲ス能ハサルノ
性質アルモノアリテ即チ夫ノ夫婦トナラントスル
者ノ狂癡ニ原由スル故障ノ如キ更ニ許多ノ日子ヲ
要ス可キニ因レリ故ニ法律ニ於テハ唯タ裁判官ノ
其定期内ニ少クモ假リニ之ヲ裁判ス可キヲ要スル
ニ過キサルモノタリ

且ツ其請求ハ裁判官ノ定期内ニ之ヲ裁判セサルカ
爲メ敢テ廢止セラル可キニ非ス唯タ其裁判官ノ已
レノ義務ヲ欠キシカ爲メ本人ハ之ヲ相手取り以テ
其損失ヲ償フ可キノ言渡ヲ受ケシムルニ過キサ
ルモノナリ 訴訟法第五百〇五
條、第五百〇六條

而シテ若シ其故障ヲ述ヘシ者ノ其訴訟ニ負ケシ時
ハ其訴訟ニ管スル總テノ費用ヲ償フ可キノ言渡ヲ
受ク可キモノナリト雖モ其故障ヲ述ヘシ者ノ其故
障ヲ申述セラレシ本人ノ尊屬親タル歟又ハ兄弟姉
妹タル時ハ法律ニ於テ其費用ヲ互ニ相償却スルヲ

許ス即チ之ヲ詳言スレハ其故障解除ノ裁判言渡ヲ
得タル本人ニ對シ其訴訟ニ管スル費用ノ全部又ハ
一部ヲ擔任ス可キ旨ヲ裁判所ヨリ命スルヲ得可キ
モノトス是レ他ナシ其親族中更ニ復タ不熟ヲ生ス
ルノ種子ヲ養成セシメサルヲ欲スルカ爲メナリ
又其故障ヲ述ヘシ者ノ敗訟トナリタル時ハ其本人
ニ損害ヲ償フ可キノ言渡ヲ受ク可シ是レ現ニ法ニ
適セシ婚姻ヲ妨ケ因テ其損害ヲ醸セシモノナレハ
之ヲ償フハ理ノ當ニ然ルヘキモノタルニ因レリ
然レモ此規則ハ一般ニ之ヲ適用ス可キモノニ非ス

故ニ尊属親ヲ除キ其他ノ故障ヲ述ヘタル者ニノミ
 之ヲ適用ス可シ蓋シ尊属親ハ何レノ場合ニ於ケル
 モ其損害ヲ償フ可キノ言渡ヲ受ク可カラサルモノ
 ニシテ縱令何等ノ過失ト雖モ敢テ之ニ歸スルヲ得
 サルモノトス而シテ其然ル所以ハ尊属親ノ其子ノ
 婚姻ニ故障ヲ述フルハ其子ノ爲メニ轉其利益ヲ慮
 ルモノタルヲ法律上ニテ推測スルニ因ルモノタリ
 〔第六百四十三〕 前ニ記セシ所ニ就キ以テ尊属親ノ述
 ヘタル故障ト傍系親ノ述ヘタル故障ト其間ニ著シ
 キ三箇ノ別アルヲ知ル可ク因テ之ヲ左ニ申明ス

第一 尊属親ハ婚姻取消ノ障碍又ハ簡單ノ障碍

ニ因リ其故障ヲ証スルヲ得レト傍系親ハ然ラ
 ス法律上ニ定メタル二箇ノ障碍ニ據ルニ非サ
 レハ敢テ之ヲ証スルヲ得サルモノトス(第六百
 六十六、第六百十七、第六百二
 十三)及ヒ(第六百二十四)ヲ見ヨ

第二 尊属親ハ故障ヲ述フル証書ニ其原由タル

趣意ヲ記入スルニ及ハサレト傍系親ハ然ラス
 必ス之ヲ記入セサルヲ得サルモノトス(第五百
 三十一)
 ヲ見

第三 故障ノ訴訟ニ負ケシ時傍系親ハ其損失ノ

償ヲ爲ス可キ言渡ヲ受ク可キモノト雖モ尊屬
親ハ然ラス諸般ノ場合ニ於テ盡ク之ヲ免ル可
キモノタリ

○第四章 婚姻取消ノ訟求

〔第六百四十四〕 本章ニ於テハ(第一)婚姻取消ノ訟求(第

二)「ビエタチーフ」ノ婚姻 其實無効ニ屬スレモ夫婦又ハ共
一方ノ者誠意ヲ以テ契約セシ婚
姻ヲ(第三)婚姻ノ證據等ヲ講明スルモノタリ

○第一款 婚姻取消ノ訟求

〔第六百四十五〕 總説○取消ノ婚姻及ヒ取消ト爲スヲ
得可キ婚姻ノ義意

取消ノ婚姻トハ其外貌ヨリ之ヲ見レハ已ニ婚姻ヲ
行ヒタルモノ、如シト雖モ其實ハ更ニ法ニ適セシ
成績ナキ婚姻ヲ云フ而シテ此ノ如キ婚姻ハ管ニ不
完。成。即チ有弊ノ婚姻タルノミナラス原來成。蹟。ナ。キ。
婚姻タレハ總テ民事上ノ效ヲ保タサル純然ノ一箇
件ニ過キササルモノタリ

而シテ此婚姻ノ取消ハ完全ニシテ且ツ期限ナキモ
ノナリ然リ而シテ其完全ナルカ故ニ何人ト雖モ苟
モ之ニ管係アル者ハ總テ其取消ヲ訴フルヲ得又其
期限ナキカ故ニ何時ニ限ラス其取消ヲ訴フルヲ得

可ク之ヲ要スルニ此類ノ取消ハ縱令幾許ノ時間ヲ經過スルモ又ハ其夫婦ノ明許若クハ黙許アルモ得テ其蹟ヲ滅スルヲ得サルモノタリ

〔第六百四十六〕而シテ凡ソ著書家ハ此完全ニ且ツ期限ナキ取消ヲ名ツケ以テ當然ノ取消ト云フ然レモ此當然ノ取消ナル名ハ此語ニ因リ以テ説明スル意義ニ相適セサル所アレハ若シ初メテ此語ヲ讀ム者ハ恐ラクハ左ニ記スルカ如ク之ヲ解スルニ至ル可シ曰ク此類ノ取消ハ原來法律ノカラニ因リ以テ自カラ生ス可キモノタレハ敢テ之ヲ訟求シ其

裁判言渡ヲ要セサルモノナリト然リ而シテ此ノ如キハ則チ其誤解タレハ勉メテ之カ注意ヲ爲サ、ル可カラス因テ爰ニ其所以ヲ言フニ凡ソ其實ヲ存スル婚姻ニ付キ現ニ其一方夫又ノ其名義ヲ辭柄トスル時ハ之カ取消ヲ主張シ以テ其婚姻ヲ免レントスル他ノ一方ハ必ス之ヲ裁判所ニ訟求シ而シテ其裁判所ニ於テ其婚姻ノ唯々其外貌ノミ成立チシモノタルヲ認メシ後其取消ヲ訟求セシ者ノ更ニ他ニ婚姻ヲ爲ス可キ自由アル旨ノ言渡ヲ受ケサル可カラサレハ此婚姻ト雖モ決シテ當然之ヲ取消ス可キニ非

ス且ツ常ニ其名義ト外貌トヲ保チシモノナレハ必
ス裁判上ニテ之ヲ排斥セサルヲ得サルモノトス是
レ何人ト雖モ其己レニ管スル條件ヲ自カラ裁判ス
ルヲ得サルニ因ル

〔第六百四十七〕

故ニ某ノ婚姻ハ當然取消ス可キモノ

ト云フ時ハ此婚姻ハ衆人ニ於テ且ツ何時ニ限ラス
取消トナスヲ得可キモノタリト云フノ謂ナリ

(衆人ニ於テ云々)故ニ何人ヲ論セス苟モ之ニ管係ア
ル者ハ盡ク其取消ヲ訟求ス可キノ權アリ

(何時ニ限ラス云々)故ニ若シ其夫婦中ノ一方ニ於テ

其婚姻ヲ辭柄トスル時ハ他ノ一方ニ於テ何時ニ限
ラス之ヲ拒ムヲ得可ク而シテ其婚姻ヲ拒ム者ノ嘗
テ其權ヲ拋棄セシ時ト雖モ亦然ルモノトス何トナ
レハ其者ノ其權ヲ拋棄セシハ畢竟唯々其婚姻ヲ苟
諾セシニ過キス而シテ苟諾ノ如キハ敢テ其力ヲ
保ツ可キモノニ非ス但シ苟諾ハ固ト全ク承諾セサ
ルニ非ス即チ不完全ナルモノヲ諾スルノ謂ナレ
爰ニ謂フ婚姻ノ如キハ假令不完全ナカラモ敢テ成
立ツ可キモノニ非サルニ因レリ

〔第六百四十七〕

〔補〕

取消ト爲スヲ得可キ婚姻トハ稍其婚

姻ニ弊アルカ爲メ法律上ニテ權理ヲ授與セシ二三
 者ノ訟求ニ因リ取消ト爲スヲ得可キ婚姻ヲ云フ然
 レ此婚姻ハ亦其後來ノ條件即チ其婚姻ヲ取消ト
 爲スヲ得可キ分限ヲ有スル者ノ苟諾ニ因リ之ヲ有
 効ノモノト爲スヲ得レハ此ノ如キハ有効ノ婚姻ニ
 モアラズ又取消ノ婚姻ニモアラズ即チ不完成ノ婚
 姻タレハ法律ニ於テハ假リニ之ヲ有効ノ婚姻ト看
 做シ其取消ヲ却テ未必ノ事ニ屬セリ但シ其本人雙
 方ノ中其婚姻ノ爲メ已レノ利益ヲ害セラル可キ一
 方ノ者ハ其無効ヲ訴フルヲ得可キ敢テ言ヲ待タス

ト雖モ此訟求ハ其本人ノ隨意ニ任ス可キモノト爲
 ス故ニ若シ其訟求ヲ爲スノ時ハ裁判所ニ於テ其無
 効タル所以ヲ検査シ之カ裁判ヲ言渡ス可シ然ル時
 ハ其婚姻ハ元來組成セサルモノ、如ク看做サル可
 シ然レ此之ニ反シ若シ其取消ヲ訴出セサル時ハ此
 婚姻ト雖モ全ク有効ノモノトナリ已ニ之ヲ不完成
 即チ取消ト爲スヲ得可キモノトセシ其弊害ハ更ニ
 其痕ヲ存セサルモノ、如ク看做サル可シ
 而シテ此類ノ取消ハ不完全ニシテ且ツ其期限アル
 可キモノナリ

(不完全云々)何トナレハ其取消請求ノ權ハ特ニ二三
者ノミニ屬シ之ヲ一般ニ屬セサルニ因レリ

(期限云々)何トナレハ其取消請求ノ權ヲ有スル者ノ
若シ定期内ニ其權ヲ行ハサル時ハ其請求セサルヲ
以テ直チニ其權ヲ拋棄セシモノトシ從テ其婚姻ヲ
默許セシモノト爲スニ因レリ

前ニ歴叙セシ所ノモノヲ爰ニ今約言スルニ即チ左
ノ如シ

第一 完全ニシテ且ツ期限ナキ取消ノ婚姻即チ
成蹟ナキ婚姻

(完全云々)故ニ其取消ハ之ニ管スル總テノ者及ヒ檢
官ヨリ之ヲ請求スルヲ得可シ

(期限ナキ云々)故ニ其取消ハ時間ヲ經過スルモ又ハ
默許ニ因ルモ敢テ其痕ヲ滅ス可カラサルモノタリ

第二 不完全ニシテ且ツ期限アル取消ト爲スヲ
得可キ婚姻

(不完全云々)故ニ其取消ハ唯々法律上ニ示定セシニ
三者ニ非サレハ之ヲ請求スルヲ得ス

(期限アル云々)故ニ其取消ハ默許即チ之ヲ請求スル
權ヲ有スル者ノ其權ヲ拋棄スルニ因テ以テ其痕ヲ

滅ス可キモノタリ

〔第六百四十九〕此二箇ノ場合ノ外ニ又其中間ニ存スルモノアリ即チ混同ノ取消之ヲ詳言スレハ完全ニシテ期限アル取消ノ婚姻ナリ但シ此事ハ後文ニ於テ之ヲ示定ス可シ

○第一節 取消ノ婚姻 ○完全ニシテ且ツ期限ナキ取消

〔第六百五十〕(一)完全ナル取消ノ理由

凡ソ此類ノ取消ハ固ト是レ國ノ安寧ヲ護スルノ主義ニ原クモノタリ故ニ何時ニ限ラス苟モ其婚姻ニ

管係アル者ハ總テ其取消ヲ訟求スルヲ得可シ而シテ其理由ノ數七アリ即チ左ノ如シ

第一 夫婦性ヲ同フスル事何トナレハ凡ソ婚姻ハ性ヲ異ニスル二人ノ間ニ之ヲ結フヲ以テ其本然ノ素質ト爲スニ因テナリ

第二 雙方本人ノ全ク承諾アラサル事故ニ狂癪者即チ精神昏惑セシ者ノ婚姻ノ如キハ其外貌ハ己ニ婚姻ヲ契約セシモノ、如シト雖モ法律ニ於テハ敢テ其婚姻ヲ組成セシモノトセス因テ此ノ如キ婚姻ハ何時ニ限ラス何人ニ於ケル

モ其取消ヲ訴出ルヲ得可ク即チ承諾ナケレハ。
婚姻シタルト爲ス可カラサル是ナリ第四百十六條

第三 身分証書ノ官吏ノ面前ニ於テ雙方承諾ノ

旨ヲ述ヘサル事(第五百九十
三)ヲ見ヨ

〔第六百五十一〕 此三原因ハ婚姻取消ノ章ニ之ヲ記列

セサルモノタリ而シテ其之ヲ記列セサルノ所以ハ
甚々解シ易キモノニシテ抑夫婦ノ其性ヲ異ニスル
事及ヒ其雙方ノ承諾若クハ身分証書ノ官吏ノ面前
ニ於テ互ニ承諾セシ旨ヲ陳述スル事ノ如キ此三者
ハ固ト婚姻ニ欠ク可カラサル本然ノ素質タレハ若

シ此中其一ヲ欠ク時ハ其婚姻ノ完成ナラサル敢テ
言ヲ待タサルモノトス故ニ何人ニ於ケルモ又何時
ニ限ラス總テ取消スヲ得可キモノタリ
故ニ婚姻ノ契約ニ關シテハ法文ニ示定セシモノ、
外更ニ之ヲ取消ス能ハスシテ且ツ其取消ヲ訴フル
ノ權理モ亦法律上ニ明許セシ者ニ非サレハ之ヲ屬
セサルヲ原來本然ノ主義ト爲セ此ニ記スル同性
人ノ間ニ結ビシ婚姻又ハ身分証書官吏ノ面前ニ於
テ行ハサル婚姻ノ如キハ固ト是レ取消ノ婚姻法律ニ於
テハ更ニ明ト爲ス可キモノタレハ何時ニ限ラス及
示セサレ

ヒ何人ニ於ケルモ之カ取消ヲ訴フルヲ得ルモノト
 ス是レ敢テ疑ヒヲ容ル、者アラサルナリ
 然リ而シテ上ニ記スル如ク身分証書官吏ノ面前ニ
 於テ行ハサル婚姻ノ之ヲ取消ト爲ス理由ノ己ニ若
 カク當然タル時ハ夫婦又ハ其一方ノ承諾セサル婚
 姻ノ如キ亦敢テ然ラサルヲ得サルモノトス故ニ縱
 令法律上ニ明文ナシト雖モ余ハ直チニ之ヲ左ノ如
 ク決セントス曰ク婚姻執行ノ時ニ方リ精神昏迷セ
 シ者ノ傍系親ハ其本人ノ己ニ死セシ時ハ其生存中
 自カラ行ヒ得ルカ如ク其婚姻ノ取消タルトヲ証明

スルトヲ得可シト

〔第六百五十二〕 第四

二夫

又ハ

ヲ有スル事即チ前婚

ノ解ケサル前再婚ヲ結ヒシ事

第百八十八條

凡ソ前婚ノ解ケサル前ニ再婚ヲ結ヒシ時ノ如キ此
 再婚取消ノ原因ハ其二夫 又ハ 二婦 又ハ 有スル罪ノ期滿免
 除ニ因ルモ又ハ前婚ノ解除ニ因ルモ之ヲ滅スルヲ
 得サルモノトス然レモ己ニ前婚ヲ解除セシ後ニ其
 再婚ニ因リ擧ケタル子ハ姦通ノ子タルニ非ス之ニ
 通常ノ私生子タル效ヲ生セシム可キモノタリ
 第五 法律上ニ禁セシ親族ノ互ニ婚姻セシ事

此婚姻ハ後日ニ至リ俄ニ其特許ヲ得ルト雖モ法ニ適セシモノト爲スヲ得ス

〔第六百五十三〕

第六

公ケニ婚姻ヲ行ハサル事

從第百九

十一條至第百九十三條

婚姻ノ公告ト公ケニ婚姻ヲ行ハサル事トハ已ニ前

ニ記セシカ如ク勉メテ之ヲ混同セサルヲ要トス因

テ此ニ之ヲ言フニ凡ソ婚姻ヲ公ケニ爲スノ式ハ諸

般ノ原因ヲ以テ組成スル入リ組ミシ事柄ニ管シ而

シテ公告ハ其婚姻ヲ公ケニセンカ爲メノ原因中其

一タルニ過キサレハ(第五百八十、第五百八十一)ニ於テハ婚姻ヲ公ケニセンカ爲メ他ニ

何等ノ原因ヲ假令其公告ハ之ヲ爲サ、ルモ他ニ其

婚姻ヲ公ケニス可キ充分ノ事實アル時ハ猶ホ其婚

姻ヲ法ニ適セシモノト爲スヲ得可ク且ツ此事ニ付

テハ裁判官ニ授クルニ非常ノ特權ヲ以テスルモノ

ダレハ其婚姻ノ果シテ法律ノ要スル所ニ背カサル

ヤ否ヲ決スルハ全ク裁判官ノ思量ニ屬ス可キモノ

タリ是レ第百九十三條ニ因リ生スル所ノ分明ナル

結果ダレハ該條ノ文ヲ見ルニ婚姻ノ公告ヲ爲サ、

ル時ハ裁判所ニ於テ其婚姻ヲ取消ス可キ旨ヲ裁判

セサル時ト雖モ其罰金ノ刑ハ猶ホ之ヲ受ケシム可

キヲ定ム故ニ法律ニ於テハ其婚姻ヲ公ケニセンカ
爲メ要スル所ノ諸般ノ條件ヲ一モ遺漏セサルヲ要
スルニ非ス唯タ其婚姻ヲ行フニ其曖昧ニ屬セサル
ヲ以テ足ル可キモノトセリ

〔第六百五十四〕然リ而シテ若シ婚姻ノ公告ヲ爲サ、
ル時ハ檢官ヨリ其婚姻ヲ行ハシメシ身分証書ノ官
吏並ニ婚姻ヲ行ヒタル本人又ハ其本人ヲ監督セシ
者ニ對シ罰金ノ言渡ヲ受ケシム可ク而シテ其本ハ
等ニ課ス可キ罰金ノ額ハ其家産ニ應ス可キモノト
雖モ身分証書ノ官吏ニ課スル罰金ハ多ク凡三百フ

ランニ過ク可カラサルモノトス是レ罰金ハ之ヲ課
セラル、者ノ如何ヲ問ハス其員額ヲ均フスル時ハ
諸般ノ場合ニ於テ其家産ニ豊約ノ異アルヨリ或ハ
嚴ニ過キ或ハ緩ニ失シ到底法律ノ目的ヲ達スル能
ハサルノ恐レアルニ因ルモノタリ

〔第六百五十五〕又婚姻ヲ公ケニセサル時ハ唯タ上ニ
記スル罰金ヲ課セラル、ノミナラス更ニ其婚姻取
消ノ言渡ヲ受ク可ク而シテ此取消ハ縱令夫婦タル
ノ情況ヲ存スルモ又ハ其明許若クハ黙許ニ因ルモ
到底其痕ヲ滅スルヲ得サルモノトス

〔第六百五十六〕 第七 身分証書官吏ノ管轄違ノ事

凡ソ婚姻ヲ公ケニ爲スノ式ニ管スル諸般ノ規則ニ背キシ時ニ於テ其婚姻ヲ取消ス可キヤ否ヲ決スルハ既ニ前ニ記セシカ如ク法律ニ於テ之ヲ裁判官ノ思量ニ任ス可キモノトセリ是レ婚姻ヲ公ケニ爲スノ式ハ假令遺漏ナク之ヲ行フニ非サルモ裁判官ハ其思量ニ因リ以テ其婚姻ノ法ニ適セシモノト爲スニ足ル可キ旨ノ裁判ヲ爲スヲ得可キノ所以ナリ因テ此ニ問題アリ曰ク身分証書官吏ノ管轄違ノ事ニ於ケルモ亦前項ニ記スル所ト相同シキモノタル

乎即チ裁判官ハ此事ニ管スルモ亦猶ホ若カキ特權ヲ有ス可キモノタル乎而シテ此問題ヲ否トスル者ノ說ニ曰ク婚姻ヲ公ケニ爲スノ式ト身分証書官吏ノ管轄トハ全ク其種質ヲ異ニスルモノタリ然リ而シテ此第一ノモノハ原ト諸般ノ原因ヲ以テ之ヲ組成ス可キモノタレハ或ハ其原因中縱令其一ヲ欠クモ敢テ全ク其式ヲ行ハサルニ非ス唯々之ヲ行フノ充分ナラサルノミニ過キサレハ之ヲ要スルニ畢竟唯々其式ヲ行フニ方リ其遺漏ナキト否トノ異同アルニ過キサレナリ故ニ

裁判官ノ思量ニ因リ以テ其法律ノ要スル所ヲ補填スルニ足ルモノト爲シ之カ裁判ヲ爲スヲ得可キモノナリ

然リ而シテ身分証書官吏ノ管轄ハ之ニ反シ單純ナル一箇件ニ屬シ多少ノ原因ヲ以テ組成スルモノニ非サレハ到底身分証書官吏ノ管轄ヲ異ニスルト否トヲ判スルノ外更ニ其中間ニ介在ス可キ場合ナク而シテ斯ク其性質ノ全ク一階級ヲ包含セサルモノタレハ婚姻ヲ公ケニ爲ス式ノ如ク他ニ幾許カ其部分ヲ充スヲ得可キ條件ナキモノトス故ニ裁判官ハ

其婚姻ヲ行ヒタル身分証書官吏ノ管轄違ナルヤ否ヲ証明シ以テ其法ニ適セシ婚姻タルト取消ノ婚姻タルトヲ認ムルノ外更ニ他ニ爲ス可キナキモノタリト

然ルニ前ノ問題ヲ可トスル説ハ前説ニ於ケルヨリ更ニ一般ニ論者ノ收用スル所ノモノナリ即チ其説ニ曰ク身分証書官吏ノ管轄ハ婚姻ヲ公ケニ爲スノ式ト相連結スルモノナリ現ニ法律上ニ凡ソ婚姻ハ夫婦トナラントスル其一方ノ住所ノ身分証書官吏ノ面前ニ於テ之ヲ執行ス可キヲ要スルハ敢テ他ア

ルニ非ス其婚姻ニ管係アル者ヲシテ容易ニ之ヲ知
 ラシメント爲スニ在レハ(第五百八十
 一)ヲ見ヨ 身分証書官吏ノ
 管轄ニ於ケル議論ハ到底婚姻ヲ公ケニ爲スノ式ニ
 管スル議論ニ歸着ス可キモノトス故ニ其規則ニ背
 キシ婚姻ヲ取消スト否トハ之ヲ裁判官ノ思量ニ属
 任シ當時ノ情况ニ因リ決ス可キモノタリ
 且ツ其然ル所以ハ第百九十三條ニ已ニ分明ノモノ
 タレハ此ニ之ヲ約記スルニ該條ニ於テハ第百六十
 五條ニ記シタル規則ニ背キシ時ハ其婚姻ヲ取消ト
 爲スニ足ル可キト否トノ判決ヲ裁判官ノ特權ニ委

ス可キモノトシ而シテ第百六十五條ニ記シタル規
 則ハ即チ婚姻ヲ公ケニ爲スノ式ト之ヲ行フ可キ身
 分証書官吏ノ管轄トニ相關スル所ノモノタリ
 故ニ凡ソ婚姻ハ其夫婦トナラントスル一方ノ者ノ
 住所ニ於ケル身分証書ノ官吏ニ由ラス他ノ身分証
 書ノ官吏ニ由リ以テ執行セシモノト雖モ猶ホ法ニ
 適セシ婚姻ト爲スヲ得可キモノトス

〔第六百五十七〕 然レ凡ソ身分証書ノ官吏ニ非サル者即
 チ更ニ婚姻ニ關係ナキ他ノ民生官吏例ヘハ公證人
 ニ由リ以テ執行セシ婚姻ノ如キハ敢テ前ニ論セシ

所ト相同シキモノニ非ス况ヤ平人ニ由リ以テ執行
 セシ婚姻ニ至テハ其法ニ適セサル固ト論ヲ竝タサ
 ルモノタリ蓋シ婚姻ハ身分證書ノ官吏ノ面前ニ於
 テ必ス行ハサルヲ得サルモノタレハ此事ニ付テハ
 裁判官ト雖モ決シテ特權ヲ有セサルモノトス(第五
 十)ノ第一
 項ヲ見ヨ

〔第六百五十八〕

(二)完全ノ取消ヲ請求スルヲ得可キ者
第八百八十四條、第八十七條、第八十八
 條、第八十九條、第九十條及ヒ第
 百九十
 一條

凡ソ法律上ニ認許セサル婚姻即チ取消ノ婚姻ハ何

人ニ對スルモ之ヲ組成ス可キニ非サルモノトス是
 レ左ニ記スル規則ノ由テ生スル所以タリ曰ク凡ソ
 何人ト雖モ法律上ニ認許セサル婚姻ハ之ヲ取消ト
 爲サシムルノ分限ヲ有ス可シト
 然レモ凡ソ訴訟ハ或ル利益ニ原クヲ以テ我法律ノ
 本主義ト爲セハ詳明至當ノ利益ヲ有シ苟モ其保護
 ヲ要スル者ニ非サレハ何人ニ於ケルモ訴訟ヲ爲ス
 ヲ聽サ、ルモノトス是レ前ニ記スル規則ニ稍制限
 ノ因テ生セン所以ナリ曰ク婚姻ヲ取消ト爲スニハ
 之カ爲メ現在己生ノ利益ヲ有スル者ニ非サレハ其

訟求ヲ爲スヲ得スト
 故ニ現。在。已。生。ノ利益ヲ損害セラレシニ非ス唯々或
 ル思望ヲ防害セラレシノミタルカ如キハ婚姻取消
 ノ訟求ヲ爲スヲ得サルモノトス
 之ヲ要スルニ完全ノ取消ヲ訟求ス可キ權利ハ現在。
 其。婚。姻。ニ。關。係。ア。ル。總。テ。ノ。者。ニ。屬。ス。可。ク。即。チ。詳。カ。ニ
 言。へ。ハ。若。シ。其。婚。姻。ノ。已。レ。ニ。對。抗。セ。ラ。ル。、。時。ハ。現。在。
 已。生。ノ。權。理。ヲ。害。セ。ラ。ル。可。キ。者。ニ。屬。ス。可。シ
 而シテ左ニ記列スル者ノ如キハ其婚姻ヲ取消スニ
 付キ現在已生ノ利益ヲ有スル者タリ

第一 其婚姻ヲ行フタル夫婦

第二 再婚ヲ契約シタル者ノ夫又ハ婦

第三 尊屬親

第四 傍系親及ヒ前婚ニ由テ擧ケタル子但シニ

三ノ要件ニ屬セララル可キモノタリ

第五 夫婦ノ債主

第六 檢官

〔第六百五十九〕(一)其婚姻ヲ行フタル夫婦

凡ソ夫婦タル者ハ法律及ヒ社會ニ於テ許サ、ル婚
 姻ハ之ヲ解クヲ以テ互相ノ利益ト爲ス可キモノタ

レハ嘗テ其婚姻ニ妨害タル可キ故障ヲ秘匿シ以テ
 他ノ一方ヲ欺キシ夫又ハ婦ト雖モ日後之カ取消ヲ
 訟求スルヲ得可ク例ヘハ二夫又ハ二婦ヲ有スル事ニ管
 セシ時ノ如キハ唯々其初メ誠意ヲ以テ婚姻ヲ行ヒ
 シ一方ヨリ其取消ヲ訴フルヲ得可キノミナラス之カ
 罪ヲ歸ス可キ者即チ二夫又ハ二婦ヲ有セシ他ノ一方ト
 雖モ亦其訟求ヲ爲スヲ得可キモノトス故ニ夫ガノ自
 己ノ過失ニ原由スル訟求ハ何人ニ於ケルモ聽用ス
 可カラサルノ法言ハ爰ニ之ヲ適用スルヲ得サルモ
 ノタリ然リ而シテ其所以ハ縱令此ニ記スル罪ヲ犯

セシ者ト雖モ日後自カラ省ミ以テ其過チヲ悔ヒ之
 ヲ本心ニ問フテ其聽サ、ル時他ヨリ強テ其婚姻ヲ
 繼續セシムルヲ得サル可ク且ツ社會ノ利益上ヨリ
 之ヲ論スルモ本人ヲシテ自カラ其罪ヲ償フヲ得セ
 シムルノ要タルニ因ル

〔第六百六十〕 (二)再婚ヲ契約シタル者ノ夫又ハ婦

夫又ハ婦ハ其婚姻ヲ解カサル前ニ若シ其配耦者ノ
 再婚ヲ契約セシ時ハ其夫婦タルノ名義ヲ妨害セラ
 ル、ニ因リ其再婚ヲ取消ヲ訟求スルヲ以テ現ニ其
 利益ト爲ス可キモノタリ

然レ其再婚ハ其前婚ノ現ニ繼續スルニ非サレハ之ヲ取消ト爲スヲ得サルモノタレハ若シ其再婚セシ夫又ハ婦ヨリ其前婚ノ已ニ取消トナリシ事又ハ之ヲ取消ト爲ス可キ原因ヲ明言シ敢テ其契約セシ再婚ノ障碍タラサル旨ヲ述フル時ハ裁判所ニ於テ先ツ其前婚ノ法ニ適セシヤ否ヲ裁判ス可ク故ニ其再婚ノ法ニ適セシト否トハ此判決ノ如何ニ因リ以テ決スル所ノモノタリ

〔第六百六十一〕 (三) 尊属親

凡ソ尊属親ハ一旦婚姻ヲ承諾セシ後ト雖モ更ニ之

ガ取消ヲ請求スルヲ得可キモノトス是レ余ノ後文ニ講明セントスル夫ノ格別ノ場合ニ於テ之ニ反スル規則ヲ設定セシ第八十六條ニ由リ以テ「ア、コント」ラリオ」前解在ノ論法ヨリ生スル所ノ成果タリ抑二夫^又ハ^二婦^ハヲ有スル事法律上ニ禁シタル親族ノ互ニ相婚スル事及ヒ婚姻ヲ公ケニ行ハサル事等ノ如キハ頗ル國序ノ整頓ヲ紊亂ス可キモノタレハ縱令一旦之ヲ承諾セシト雖モ若シ法律ニ於テ更ニ其更改ヲ請求ス可キ權ヲ付與セサル時ハ顧フニ法律ノ目的ヲ達スルヲ得サル可シ

〔第六百六十二〕 然レ此權理ハ凡ソ尊屬親タル者ニ
 ハ總テ之ヲ屬ス可キ歟又ハ其順序ヲ逐ヒ甲ノ存セ
 サル時ハ之ヲ乙ニ屬ス可キモノナル歟即チ父母共
 ニ取消ヲ訟求セサル時ハ祖父ヨリ其訟求ヲ爲スヲ
 得可キ歟或ル論者ハ其權ヲ一般ニ屬ス可キモノト
 爲シ凡ソ尊屬親ニハ其親疎ヲ論セス盡ク之ヲ屬ス
 可キモノトセリ其說ニ曰ク凡ソ尊屬親タル者其卑
 屬親ノ婚姻ヲ取消サントスル時ノ如キ其由來スル
 所ノ利益ハ畢竟如何ナル種質ニ屬スルモノタル乎
 是レ其單純ナル道義上ノ利益タレハ要スルニ其利

益ハ其親族ノ風儀ト安寧トヲ保全シ其榮譽ヲ害セ
 シメサルヲ欲スルニ在ルモノタリ然リ而シテ斯ノ
 如キ利益ハ凡ソ尊屬親タル者ノ爲メ盡ク之ヲ存セ
 サル可カラサルモノナレハ此權理ハ尊屬親ニ總テ
 屬ス可キモノナリト
 普通一般ノ說ハ敢テ然ラス曰ク此權理ハ尊屬親中
 其親疎ノ順序ヲ逐ヒ而シテ甲ノ存セサル時ハ乙ニ
 之ヲ屬ス可キモノニシテ夫ノ婚姻ヲ承諾シ及ヒ之
 カ故障ヲ述フルノ權ニ關シ法律上ニ定メタル順序
 ニ從ヒ以テ次第ニ之ヲ屬ス可シト

因テ思フニ尊属親ニ此婚姻取消ノ訟求ヲ爲スノ權ヲ授クルノ趣意ハ畢竟其親族ノ榮譽ヲ護シ之カ安寧ヲ保チ而シテ其風儀ヲ亂サシメサルヲ欲スルニアリ抑親族ノ榮譽ヲ護スルカ如キ事ニ關スル此權利ハ要スルニ之ヲ尊属親タル者ニ属ス可キモノト雖モ顧フニ亦其尊属親中尙ホ其順次ヲ區別セサルヲ得サルモノトス何トナレハ斯ノ如キノ責ハ固ト其最近ノ尊属親ニ非サレハ之ヲ属ス可キモノニ非サレハ唯々其存セサル時ノミニ限り之ヲ遠疎ノ尊属親ニ移ス可ク若シ其レ然ラサル時ハ必ス事物ノ

順序ヲ破壞シ因テ或ハ親族中ノ制規ヲ紊亂シ到底法律ノ目的ヲ達スル能ハス遂ニ親族ノ和熟ヲ保ツヲ得サルニ至ル可キニ因ル

〔第六百六十三〕 (四) 傍系親及ヒ前婚ニ因テ舉ケタル子

第百八

十七條

爰ニ尊属親ト傍系親トノ間ニ存スル其別異ヲ示サントス

凡ソ婚姻取消ノ訟求ヲ爲スヲ得ルニハ其婚姻ヲ取消スニ付キ現在已生ノ利益ヲ有スルヲ要トス凡ソ尊属親ニ於テハ此ニ記スル婚姻ニ付テハ直チ

ニ其關係ヲ生ス可キモノナリトス何トナレハ若シ其婚姻ノ存續スル時ハ親族ノ平和ト榮譽トヲ妨害スルヲ以テナリ故ニ尊屬親ハ直チニ其取消ヲ訟求スルヲ得可キモノタリ

傍系親ニ於テハ敢テ然ラズ其關係ハ唯々其遺物相續ノ事ニノミ屬スルモノナレハ全ク金額上ノ利益ニ係リ道義上ヨリ出ツルニ非サルモノタリ而シテ斯ノ如キ利益ハ其性質其本人婚姻セシ者ヲ云フノ死去セシ時ニ至ラサレハ生ス可キモノニ非サレハ本人ノ生存中ハ敢テ其婚姻ノ取消ヲ訟求スルヲ得サルモノ

トス故ニ傍系親ハ本人ノ死去セシ時其當サニ取消ヲ訟求スヘキ婚姻ニ因リ擧ケタル子ヲ除キ己レ獨リ其遺物相續ヲ爲サントスル時ニ非サレハ其取消ノ訟求ヲ聽用セラル、ヲ得ス即チ之ヲ再言スレハ傍系親ニ婚姻取消ノ訟求ヲ爲スヲ得可キ權ヲ授クルハ其本人ノ親戚タル故ヲ以テスルニ非ス而シテ其相續人タル故ヲ以テスルモノタリ
傍系親ニ關シ上ニ述フル所ノモノハ前婚ニ因リ擧ケタル子ニ於ケルモ亦同一ノ理由ニ原キ等シク之ヲ適用ス可ク故ニ此兩者傍系親及ヒ前婚ニ由テ擧ケタル子ハ夫婦

ノ生存中ハ其婚姻ヲ妨害シ之カ取消ヲ請求スルヲ得サルモノナリ

〔第六百六十四〕夫レ斯ノ如ク傍系親及ヒ前婚ニ因リ舉ケタル子ニ夫婦ノ生存中ハ之カ婚姻取消ノ請求ヲ爲スヲ聽サ、ルノ趣意ハ蓋シ此兩者ハ夫婦ノ死去セシ時ニ至ラサレハ其利益ノ生セサルニ因テナリ然レ、氏又其婚姻ノ法ニ適スルト否トカ當ニ夫婦ノ遺物相續ニ關スルノミナラス更ニ他ノ遺物相續ニ關スルトアリテ其傍系親又ハ前婚ニ因リ舉ケタル子カ夫婦ノ生存中ヨリ現。在。已。生。ノ利益ヲ有スル

時ノ如キ或ハ右ニ反スル場合無キニ非ス左ニ其類例ヲ揭示ス可シ

〔第六百六十五〕第一類 爰ニ余ノ兄弟アリ其死スルニ當リ一子ヲ遺シ而シテ其子ニ姦通ノ子數人アリ即チ其前婚ヲ解カサル前更ニ結ヒシ再婚ニ因リ舉ケタル數子アリ然リ而シテ余ノ兄弟ノ子即チ數子ノ父ハ其父余ノ兄弟ノ遺物相續ヲ爲サ、ル歟又ハ無能力ナルカ爲メ其相續ヨリ排除セラレシモノト爲スニ此時其數子カ若シ嫡出ノ子タル時即チ其父ノ婚姻ノ法ニ適セシモノナルニ於テハ死者ノ孫男、孫女ノ權ハ

其兄弟ノ權ニ優ル可キニ因リ第七百四十五條 余ノ兄弟ノ遺物相續ハ盡ク此數子ニ屬シ余ハ之ニ預ルヲ得サル可ク故ニ余ハ假令余ノ甥即チ數子ノ父ノ生存中ト雖モ其婚姻取消ニ付キ現在已生ノ利益ヲ有スルモノタリ何トナレハ其婚姻ヲ取消ス時ハ則チ其數子ノ嫡出タラサルヲ証シ而シテ余ノ要スル遺物相續即チ兄弟ノ遺物相續ニ於テ敢テ該數子ノ其權ナキヲ証スルヲ得レハナリ

〔第六百六十六〕 第二類 爰ニポール氏ナル者前婚ニ

因リ舉ケタル數子アリ而シテ其婚姻ヲ解カサル前ニ更ニ再婚ヲ契約シ此再婚ニ因リ亦數子ヲ舉ケ然リ而シテ其前婚ニ因リ舉ケタル數子中ノ一人其子ヲ遺留セス死去セシモノト爲スニ此時ポール氏ノ再婚カ若シ法ニ適セシモノナル時ハ其死去セシ子ノ財産相續ハ前婚ノ數子ト再婚ノ數子トニ其一部分ヲ分配セサルヲ得ス第七百五十一條 故ニ其前婚ノ數子ハ假令其父即チポール氏ノ生存中ト雖モ其再婚ノ取消ヲ訟求スルニ付キ現在已生ノ利益ヲ有スルモノタレハ直チニ其取消ノ訟求ヲ爲スヲ得可キモノトス

〔第六百六十七〕 (五)夫又ハ婦ノ債主

凡ソ夫ノ承諾ヲ得ス契約シタル其婦ノ債主ハ其契約ノ取消トナルヲ防カンカ爲メ第二百十七條其婚姻ノ取消ヲ訟求シ又夫ノ債主ハ其婦ノ爲メ其不動産ノ法律上書入質トナリシヲ取消サンカ爲メ第二百二十一條其婚姻ノ取消ヲ訟求シ因テ以テ各其利益ヲ有ス可キモノナレト抑婚姻取消ノ訟求ハ唯々此ノ如キ利益ノミヲ以テ之ヲ聽用スルニ足ル可キ乎

之ヲ否ト爲ス者ノ主張スル説ニ曰ク第八十四條ニ於テハ婚姻取消ノ訟求ハ現在利益ヲ有スル總テノ者ニ之ヲ許シ而シテ其法文ニ據レハ此規則ヲ以

テ之ヲ一般ニ適用スルモノ、如シト雖モ第八十七條ニ第八十四條ニ記スル其利益ヲ有スル總テノ者ナル語辭ヲ復用シ且ツ之ヲ解釋シテ其意ヲ明示シ以テ其限界ヲ定メ凡ソ婚姻ノ取消ヲ訟求シ得ルニ必ス有セサル可カラサル利益ノ種質ヲ示定セリ然リ而シテ其有セサル可カラサル利益ナルモノハ夫ノ遺物相續ノ權理ヲ以テ之ヲ組成セサルヲ得サルモノタリ

故ニ婚姻取消ノ訟求ハ唯々或ル利益ヲ有スルノミニテハ未タ之ヲ爲スニ足ラサルモノトス若シ其レ

然ラサル時ハ少許ノ利益例ヘハ二三「フラン」ノ利益ニ關スル時ノ如キモ何人ヲ問ハス他人ノ婚姻ヲ抵排シ得ルニ至ル可ク而シテ此ノ如キハ豈ニ悖理ノ甚タシキモノニ非スヤ」ト

然レモ普通一般ニ收用スル所ノ説ハ之ニ反ス其説ニ曰ク第百八十四條ニ凡ソ婚姻ヲ取消スニ付キ現在利益ヲ有スル者ハ總テ之ヲ訟求スルヲ得可シト爲スノ規則ハ顧フニ一般完全ノモノニシテ第百八十七條ハ敢テ之ニ反スルモノニ非サルナリ現ニ第百八十七條ニハ婚姻取消ノ訟求ニ付キ之カ基礎タ

ルヲ得可キモノハ獨リ遺物相續ニ關スル利益ノミニ係ルモノタルヲ記載セス而シテ同條ノ如キハ全ク他ノ事ヲ詳明センカ爲メ之ヲ設ケシモノタレハ要スルニ其本意ハ若シ婚姻ヲ取消スニ付キ其利益ノ或ハ遺物相續ノ權ニ關スル時ハ其夫又ハ婦ノ死去ニ因リ初メテ其權理ノ端緒ヲ開ク可キヲ要セシニ在リ且ツ債主ノ利益ノ如キハ假令少許ナル時ト雖モ其關スル場合ニヨリ時トシテ重大緊要ノ一ナキニ非ス然ルニ其罪ス可キ婚姻ヲ重スルカ爲メ却テ其債主ヲ妨害スルカ如キ豈ニ理ノ然ルモノタラ

ンヤト

〔第六百六十八〕

(六) 檢官即チ社會(檢官ハ社會ノ代人)

ルニ因ル)

第九十條第百九十一條

法ニ適セサル婚姻ニ因リ生スル所ノ忌惡ス可キ成
蹟ト其安寧ニ關スル障礙トヲ除却スルハ社會一般
ノ爲メ其利益アル固ト分明ノモノタレハ社會ノ代
理タル可キ檢官ハ直チニ其婚姻取消ノ訟求ヲ爲ス
ヲ得可シ然レ凡ソ檢官タル者ハ必ス之ヲ訟求セ
サル可カラサル乎即チ之ヲ詳言スレハ法律ニ於テ
之ニ其分限ヲ授ケシモノナル乎將々之ニ其義務ヲ

負ハシメシモノナル乎

若シ其婚姻取消ノ原由ノ公ケニ婚姻ヲ行フノ式ヲ
欠キシトニ關スル時ハ檢官ハ唯々其取消ヲ訟求シ
得可キモノトシ敢テ必スシモ其取消ノ訟求ヲ爲ス
可キ義務ヲ負ハシメラレシモノニ非サルナリ
第九十

條一

然レ凡一般ノ説ニ從フニ夫婦ノ法ニ適セシ年齢ニ
至ラス又ハ重婚及ヒ亂倫ニ原由セシ婚姻取消ノ如
キハ前者ト相異ナルモノタレハ現ニ此三個ノ場合
ニ着意セシ第九十條ニ檢官ハ婚姻ノ取消ヲ訟求

スルヲ得及ヒ之ヲ訟及セサルヲ得サル旨ヲ定メタリ故ニ此場合ニ於テハ檢官ハ最早第九十一條ノ場合ニ於ケルカ如ク唯々其取消ノ訟求ヲ爲ス可キ分限ヲ授ケラレシノミニ非ス同時ニ其義務ヲ負ハシメラレシモノナリトス

此區別ハ決シテ立法者ノ隨意ニ出テシモノニ非ス其事項ノ種質ニ由リ自カラ之カ道理ヲ具フルモノタリ何トナレハ夫婦ノ法ニ適セシ年齢ニ至ラス又ハ重婚及ヒ亂倫ニ原由スル婚姻ノ如キハ頗ル公ケノ面目ヲ汚シ公然風俗ヲ亂スモノタレハ社會ニ於

テ之ヲ不問ニ置クヲ得サレ凡夫ノ婚姻ヲ公ケニ行ハサル事ハ其國序ノ整頓ヲ妨害スル敢テ前者ノ甚タシキカ如キニ非ス其弊害タル全ク金額上ニ關ス可キモノタレハ後來ノ情況ニ由リ間之ヲ挽回スルヲ得可キニ困ル故ニ公益ノ爲メ之ヲ嚴ニスルト否トノ處置ハ法律上之ヲ檢官ノ思量ニ任セサルヲ得ス

又檢官ハ夫婦ノ生存中ニ非サレハ其婚姻ノ取消ヲ訟求スルヲ得ス及ヒ其訟求ヲ爲ス可カラサルハ敢テ論ヲ俟タサルモノトス何トナレハ其一方ノ者ノ

已ニ死スル時ハ自カラ解婚ニ至ル可キモノナレハ其婚姻ニ因リ生シタル忌悪ス可キ弊害モ亦從テ止ム可キカ故ニ社會ニ於テハ最早相關スル所ナキニ因レリ

〔第六百六十九〕 前ニ講明シ來レル婚姻ノ完全ナル取消ノ理由ハ既ニ歴叙セシカ如ク其跡ヲ滅ス可キモノニ非サレ且或ル一二ノ場合ニ於テ特別ノ趣意ニ原キ其認求ヲ爲スヲ許サ、ルモノアリ即チ左ノ如シ

第一 全ク金額上ノ利益ノミニ於テ婚姻ノ取消

ヲ認求スルヲ得可キ者ハ若シ自カラ其依據ス可キ權理ヲ拋棄スル歟又ハ期滿得免ニ因リ其權理ヲ失ヒシ時ハ最早其認求ヲ爲スヲ得ス
第二 婚姻取消ノ理由ノ其婚姻ヲ公ケニ行ハサルニ關シ而シテ法ニ適セシ夫婦ノ情況アル時ハ其夫婦ハ其取消ヲ認求スルヲ得ス (第七百十二)ヲ

見

○第二節 取消ト爲スヲ得可キ婚姻○不
完全ニシテ期限アル取消ノ理由 (第四十

六條及七條
百八十條

〔第六百七十〕凡ソ不完全ナル取消ノ原由ハ其數二ア

リ即チ左ノ如シ

一本人雙方ノ中其一方ノ承諾ニ弊害アル事

二婚姻ニ關シ其本人等ヲ監督ス可キ者ノ承諾ア

ラサル事

〔第六百七十一〕(一)本人雙方ノ中其一方ノ承諾ニ弊害

アルニ因リ生スル取消ノ原由

夫婦トナル可キ雙方ノ者ノ承諾ナクシテ契約シタ

ル時ハ婚姻セシモノト爲ス可カラス第四百四十六條

夫婦雙方又ハ其一方ノ者ノ適意ノ承諾ナクシテ契

約シタル婚姻ハ其雙方又ハ適意ノ承諾ヲ爲サハル

一方ノ者ニ非サレハ其取消ヲ請求スルヲ得ヌ

若シ人ヲ誤リテ婚姻シタル時ハ其誤リヲ爲セシ者

ニ非サレハ其取消ヲ請求スルヲ得ス第四百八

前二條第四百四十六條及第四百八十條ノ規則ハ勉メテ之ヲ混同セサ

ルヲ要トス何トナレハ此二條ニ記スル所ハ其事實

全ク相異ナル者ナレハ其決定ニ於テモ亦相同シカ

ラサルニ因レリ而シテ其差異ハ左ニ記スルカ如シ

第四百四十六條ハ承諾ノ全クアラサル場合ヲ預定セ

シモノナリ

第百八十條ハ不○充○分○即チ有○弊○ノ○承○諾○アリシ場合ヲ
預○定○セシモノナリ

而シテ其全ク承諾ノアラサル時ハ其婚姻ハ取消即

チ成蹟ナキモノトス第百四十六條

又縱令承諾ヲ爲スト雖モ稍其弊アルカ爲メ其承諾

ノ充分ナラサル時ハ其婚姻ハ固ト是レ成蹟アリト

雖モ亦取消ト爲スヲ得○可○キ○モ○ト○ス第百八

是レ前ニ記セシカ如ク取消ノ婚姻ト取消ト爲スヲ

得○可○キ○婚○姻○ト○ニ○於○ケ○ル○差○異○ノ○因○テ○生○ス○ル○所○以○ナ○リ

然リ而シテ左ニ記スル時ノ如キハ全ク承諾ノアラ

サルモノトス

第一 本人雙方中ノ一方ノ者其婚姻ヲ承○諾○ス○ル

時ニ當リ酩酊若クハ狂疾ノ故ヲ以テ全ク其本

心ヲ失ヒ居タル時(第百五十)ノ
第二ヲ見ヨ

第二 本人雙方中ノ一方ノ者其婚姻ヲ承○諾○セ○サ

ル○ニ○身○分○證○書○官○吏○ノ○其○記○シ○タ○ル○婚○姻○執○行○ノ○證

書ニ誤テ承諾ノ旨ヲ記入シタル時

〔第六百七十二〕 此所ニ於テハ唯々婚姻ニ付キ其承諾

ニ弊アルノミノ事由ヲ講明ス可シ

常則ニ循フ時即チ通常ノ契約ニ管スル時ハ法律上

(第一)脅迫(第二)錯誤(第三)詭欺ノ三者ヲ以テ承諾ノ弊

トセリ第一千百〇九條、第一千百十條及ヒ第一千百十六條

然レ凡婚姻ノ契約ニ於テハ適意ノ承諾アラサルト
 人ヲ誤リ承諾シタルトノ二者ニ非サレハ法律上其
 契約ヲ取消ス可キ原由トセサルヲ以テ詭欺ニ因レ
 ル契約ノ如キハ之ヲ其承諾ノ弊トセス故ニ人ヲ誤
 リシ時ノ如キハ假令他ノ姦計ニ原由セスト雖モ其
 承諾ハ之ヲ有弊ノモノト爲シ其婚姻ハ之ヲ取消ス
 可キモノト爲スト雖モ人ヲ誤ルニ非ス唯タ詭欺ヲ
 行ヒシノミナル時ハ其婚姻ハ之ヲ法ニ適セシモノ

トシ其効ヲ後來ニ保タシム但シ一方ニ於テ特ニ賤
 惡ス可キ偽計ヲ行ヒ若シ其偽計ヲ行ハサルニ於テ
 ハ到底其婚姻ヲ行フ可キニ非サルノ証アル時ト雖
 モ亦然ルモノトス

因テ思フニ此制規稍正理ニ戻ルノ恐レナキニ非サ
 レ凡ソ親族タル者ノ相和熟スルヲ欲スル時ハ亦
 欠ク可カラサルノ要典ナリ何トナレハ夫婦タル者
 シ或ハ其欲心ニ惑ヒ己ニ結ヒシ婚姻ノ己レニ便ナ
 ラサルヲ後悔スルトナキニ非ス此時ニ方リ若シ詭
 欺ヲ以テ婚姻ヲ取消ス可キ原由ト爲スヲ得セシム

ル時ハ或ハ他ノ偽計ニ託言シ濫リニ其婚姻ヲ解クニ至ル者アル可キニ因ル但シ斯ノ如キ者ハ大抵其成果ヲ得可カラサル固ト疑ヲ容レサルモノト雖モ是等ノ訴訟ハ畢竟夫婦心緒ノ結頭ヲ弛フセシムルモハタレハ遂ニ社會ノ平和ヲ妨害スルニ至ル可キモノナリ

〔第六百七十三〕 適意ノ承諾アラサル事

凡ソ婚姻ヲシテ全ク法ニ適セシモノタラシムルニハ雙方本人ノ適意ノ承諾アルヲ要トス然リ而シテ脅迫ニ因リ得タル承諾ノ如キハ畢竟其本意ニ出ツ

ルニ非ス他ニ憚ル所アリ以テ已ムヲ得ス承諾セシモノナレハ之ヲ適意ノ承諾ト爲ス可カラス故ニ脅迫ハ其婚姻ヲシテ全ク法ニ適スルモノタラシムルノ障碍タル可キモノナリ

然レハ脅迫ニ恐怖シ以テ承諾セシ者ト雖モ要スルニ原ト其危害ノ輕重ヲ計リ以テ自カラ其輕キヲ撰ヒシモノナレハ假令其本心ニ出テシニ非サルモ猶ホ幾何カ其意欲ノ作用ヲ要シ以テ之ヲ承諾シタルモノナリ故ニ其承諾ハ固ヨリ其弊ナキニ非サレハ到底不完全タルヲ免カレスト雖モ亦敢テ全ク承諾

セサルニ非ス古語ニ云フ有弊ノ意欲モ亦一ノ意欲ナリト是ナリ

此ニ由テ之ヲ觀レハ脅迫ニ因リ以テ爲シタル承諾ハ全ク其跡ヲ消滅セシム可キニ非サレハ若カキ場合ニ於テ契約シタル婚姻ハ即チ取消ノ婚姻タルモノニ非サルナリ

故ニ脅迫ニ因リ以テ爲シタル承諾ハ唯々其弊アルノミトシ之ヲ不完全ノモノト爲スニ過キサレハ若カキ場合ニ於テ契約シタル婚姻ハ唯々其取消ト爲スヲ得可キ婚姻タルニ過キササルナリ第一千七百七條及ヒ第一千七百十

五條ノ註釋ヲ見ヨ

〔第六百七十四〕 人ヲ誤ル事

凡ソ婚姻ニ此類ノ謬誤アル時ハ之ヲ法ニ適セシモノト爲ス可カラス然レ凡何等ノ場合ヲ以テ人ヲ誤リタルト爲ス可キ乎即チ體格上ニ付キ其嘗テ娶ラシト欲セシ婦人ニ非サル他ノ婦人ヲ娶リシ時ニ於ケルモノナル乎又ハ己ニ娶リシ者ノ嚮ニ己レノ思量セシカ如キ分限ヲ具ヘサル時ニ於ケルモノナル乎之ヲ再言スレハ法律ニ於テハ一個人即チ體格上ニ於ケル人ノ誤リヲ云フモノナル乎若クハ民事上

ノ。分。限。即。チ。法。律。上。ニ。於。ケ。ル。人。ノ。誤。リ。ヲ。云。フ。モ。ノ。ナ
ル。乎。此。疑。問。ノ。如。キ。ハ。頗。ル。紛。議。ヲ。生。セ。シ。モ。ノ。ナ。レ。ハ
左。ニ。其。概。畧。ヲ。講。明。ス。可。シ

〔第六百七十五〕(第一説)人ヲ誤ルトハ唯タ其體格上ニ

於。ケ。ル。誤。リ。ノ。ミ。ヲ。指。シ。テ。言。ヒ。夫。ノ。分。限。上。ニ。於。ケ。ル。
誤。リ。ノ。如。キ。ハ。法。律。上。敢。テ。關。セ。サル。所。タ。リ。故。ニ。婚。姻
ヲ。シ。テ。法。ニ。適。セ。シ。ム。ル。ニ。障。碍。タ。ル。可。キ。モ。ノ。ハ。獨。リ
體。格。上。ノ。誤。リ。ノ。ミ。ニ。止。マ。ル。モ。ノ。ナ。リ
故。ニ。若。シ。其。娶。ラ。ン。ト。欲。セ。シ。者。ニ。非。ス。體。格。上。全。ク。他
ノ。婦。人。ヲ。娶。リ。シ。時。ハ。是。レ。其。所。謂。人。ヲ。誤。ル。モ。ノ。タ。リ

即チ例へハ余カマリヲ娶ラント欲セシニ彼レト
其名相同シク且ツ其聲音軀體ノ共ニ相類セシ他ノ
一婦人ノ陰カニ其面ヲ覆ヒ彼レニ代リ身分証書官
吏ノ面前ニ出席シ而シテ身分証書官吏ノ欺カレタ
ルニモセ
ト又ハ彼ノ同類余ニ對シ君ハ現ニ此ニ出席スルマ
リトトノ婚姻ヲ承諾セシヤ否ヲ問フカ如キ余ハ固
ト其信偽ヲ辨セサレハ直チニ之ニ答ヘテ曰ハン然
リト而シテ斯ノ如キ時ハ是レ即チ人ニ於ケルノ誤
リナリ
又其娶ラント欲スル旨ヲ申述セシ後ニ其娶リシ者

ノ體格上ハ嘗テ娶ラント欲セシ婦人タレ凡嚮ニ思量セシ程ノ分限ヲ有セサル時ノ如キハ是レ其所謂分限上ノ誤リナリ即チ例ヘハ余カマリーヲ娶リシニ其體格上ハ嚮ニ余ノ娶ラント欲セシマリート別人タルニ非サレ凡嘗テ其健康ノ者タルヲ思惟セシニ性來受ケ得タル宿疾アル歟又ハ其有徳者タルヲ思惟セシニ却テ品行端正ナラサル者タル歟若クハ其貴族タルヲ思惟セシニ豈ニ計ラン賤業ヲ營ミシ者タル時ノ如キハ即チ分限上ノ誤リナリ

以上述フル所ノ如ク此二様ノ誤認ハ全ク其類ヲ異

ニスルモノタレハ既ニ往古ノ法律ニ於テハ判然之ヲ區別シ現ニボチニ氏ノ如キハ其章ヲ異ニシ以テ之ヲ論述スルニ至リシナリ然リ而シテ其人ニ於ケル誤リハ其婚姻ヲ取消ト爲シ又其分限上ニ於ケル誤リハ之ヲ成績アルモノト爲セリ

因テ問フ「コード」ニ於テハ嘗ニ人ニ於ケル誤リノミナラス分限上ノ誤リト雖モ猶ホ之ニ其婚姻ノ取消ヲ附加セシモノ乎曰ク否ラス第百八十條ハ唯タ其人ニ於ケル誤リノミヲ規定セシモノニ係リ其分限上ニ於ケル誤リハ敢テ問ハサル所タリ故ニ謂フ人

ヲ誤ルトハ唯々其體格上ニ於ケル誤リノミヲ指ス
モノナリト

且ツ此解釋ハ嘗テポルタリス氏カ第百八十條ノ趣
意ニ就キ其説明書ヲ以テ更ニ固定セシ所ノモノナ
レハ此ニ之ヲ記スルニ其言ニ曰ク凡ソ婚姻ニ關ス
ル謬誤ハ其結婚セシ者ノ分限家産若クハ身分等ノ
事ニ之ヲ及ホス可カラスシテ唯々其本人ニ於ケル
謬誤ノミニ止マル可キモノタリ故ニ例ヘハ余カ某
氏ノ婦ヲ娶ラントセシニ人ノ或ハ余ヲ欺キ陰カニ
彼ニ代フルニ他ノ一婦人ヲ以テシ而シテ余ノ之ヲ

知ラス其婦人ヲ娶リシカ如キ時ハ其婚姻ハ之ヲ取
消ト爲スヲ得可シト

故ニ余カ若シマリーヲ娶リ嘗テ其貴族タルヲ思惟
セシニ其卑賤ノ者ナル歟又ハ其有德者タルヲ思惟
セシニ意外ニ失德者ナル時ノ如キハ決シテ其婚姻
ヲ取消ト爲スヲ得可キモノニ非サルナリト

然レモ此說ハ今一般ニ收用セサル所ノモノタリ而
シテ其之ヲ收用セサルノ所以ハ次ニ之ヲ講明ス可
シ
シ(第百七十
六)ヲ見ヨ

〔第百七十六〕(第二說)第百八十條ハ人ノ體格上ニ於

ケル。誤リトペルソナリテ、シビール「民事上ノ人ト云フ義」成スニ必要ナル本然ノ或ル分限上ニ於ケル誤リト
ヲ同時ニ規定セシモノナリ左ニ其理由ヲ詳明ス可
シ

第一 若シ第百八十條ヲ以テ單ニ人ノ體格上ニ於ケル。誤リノミヲ規定セシモノトスル時ハ其規則ハ殆ント無益ニ屬シ敢テ其趣意ナキモノニ似タリ何トナレハ若カキ誤リヲ規定セシモノトスル時ハ古今ノ歴史上ニ纔カニ其一例昔者シヤコ
グナル者アリヲシエト云フ婦人ヲ娶ラント欲シ誤テリアナナル婦人ヲ娶リシトアリ是レ其一例ナリヲ見ル

ニ過キサルカ如キ實際希有ノ場合ヲ規定セシニ止マルニ因レリ抑「コード」編纂ノ各委員ハ其意思眞ニ着實ノ人タレハ單ニ若カキ場合ノミニ着意セシ迂闊ノ法則ヲ定ム可キニ非サルハ敢テ言ヲ待タサルモノトス

第二 第百八十一條ノ法文ニ據ルニ夫婦ノ中其誤謬ヲ爲セシ者ハ其婚姻取消ノ訟求ヲ爲スカ爲メ其誤リヲ知リシ時ヨリ六月間ノ猶豫ヲ有スルモノトス

而シテ此猶豫ノ期限ハ嘗テ參議院ニ於テ之ヲ排

撃セシ者アリ其言ニ曰ク斯ク其期限ノ長キヲ要スルハ果シテ何等ノ爲メナル乎蓋シ人ノ體格上ニ於ケル誤リハ其婚姻執行ノ後直ニ之ヲ覺悟ス可キモノタレハ若カク數月間ノ猶豫ヲ要セサルモノナリト

然リ而シテ之ニ答フル者ノ言ニ曰ク此猶豫ノ期限ハ實ニ之ヲ要スルモノトス何トナレハ此誤リハ帝ニ人ノ體格上ニ於ケル誤リノミナラス其分限上ニ於ケル誤リニモ亦管スル所アレハ其誤謬ヲ爲シタル一方ノ者ハ現在其誤謬ヲ爲セシヤ否

ヲ確認ス可キカ爲メ必ス若干ノ時間ヲ要ス可キニ因レリト

第三 又覆審院ニ於テハ「エレック、シュル、アンジビシ」
一個ノ人ニ於ケル誤リノ意ナル語ヲ改メ更ニ「エレック、シュル、ラ、ペルソンヌ」人タル者ニ於テ爲ス可キ議案ヲ草セシトアリ

而シテ其「アンジビシ」トハ全ク體格上ヨリ認めタル人即チ本然ノ人ヲ云ヒ又其「ペルソンヌ」トハ民事上ニ於テ人ト看做ス可キ分限ヨリ認めタル人ヲ云フ（第九十七）
ヲ見ヨ

然リ而シテ若シ「コード」ニ於テ此議案ヲ收用セシモノタル時ハ所謂「エレル、シユル、ランジビジュ」即チ人ノ體格上ニ於ケル誤リノミ獨リ婚姻ノ障礙タル可キモノト爲スモ亦當然ナル可シト雖モ其已ニ收用セサルニ就キ以テ之ヲ觀レハ「エレル、シユル、ラ、ペルソナ」即チ民事上ニ於テ人ト看做ス可キ分限ヨリ認メシ人ニ於ケル誤リモ亦「エレル、シユル、ランジビジュ」即チ人ノ體格上ニ於ケル誤リノ如ク共ニ婚姻取消ノ原由トナル可キモノタリ故ニ方今一般ニ人ノ收用スル所ノ説ハ民事上ノ

人。即チ人ノ分限上ニ於ケル誤リモ亦其承諾ニ弊アル可キモノトシ因テ其婚姻ハ之ヲ取消ト爲スヲ得可キモノトスルニ在レモ此説ハ更ニ宜シク注意ヲ加ヘ以テ其本主義ヲ了解ス可キヲ要スルモノトス因テ此ニ之ヲ言フニ凡ソ法律上ニ載スル誤リナルモノハ畢竟唯タ民事上ノ人ヲ組成ス可キ分限ニ係ル誤リヲ云フモノタレハ分限上ノ誤リハ總テ之ヲ婚姻取消ノ原由タル可キモノト思惟ス可カラス故ニ嘗テチボートー氏ノ參議院ニ於テ言ヘル辭ニ「凡ソ人ハ其生存ヲ組成シ且ツ人

ヲ組成スル本然ノ分限ヲ有スルモノタリ而シテ
 法律上ニ於ケル「ペルソン」人ノナル語ハ常ニ此
 意ヲ以テ用ヒシモノナリト然リ而シテ今爰ニ説
 ク所ハ現ニ婚姻ニ關スルモノナレハ法律上ニ於
 テ用フル此語ハ之ヲ婚姻ニ必要ナル分限タルノ
 義ニ解セサルヲ得サレハ凡ソ婚姻ニ關シ人ヲ組
 成ス可キ分限ナルモノハ其婚姻ヲ行フヲ得可キ
 人タル所ノ分限ヲ云フモノトス可シ
 故ニ何人ヲ問ハス身體ノ虛弱ナルヲ知ラス之レ
 ト結婚セシ時ハ其婚姻ヲ取消ト爲スヲ得可シ是

レ蓋シ身體ノ虛弱ナル者ハ其婚姻ヲ行フニ適當
 ノ分限ヲ欠キシモノナレハ之レト結婚セシ者ノ
 嘗テ思量セシカ如キ人タルノ分限ヲ有セサルニ
 因テナリ
 又誤テ「プレートル」僧官若クハ生涯獨身タル可キヲ
 神明ニ盟ヒシ人ト結婚セシ舊教ノ信者ニ於ケル
 モ亦同シトス何トナレハ舊教ノ信者ハ其本心ニ
 於テ斯ノ如キ人トハ其道義上婚姻ノ目的ヲ果ス
 不能ハサルモノタルニ因レリ
 然レモ再餘ノ誤リニ於テハ體格上民事上若クハ

道義上ノ如何ヲ問ハス總テ其婚姻ヲ存續セシム
 可キモノトス故ニ例ヘハ余カマリーヲ娶リ嘗テ
 其甲氏ノ女タルヲ思惟セシニ乙氏ノ女タル歟又
 ハ嫡出ノ女タルヲ思惟セシニ私生ノ女タル歟若
 クハ端正ノ者タルヲ思惟セシニ意外ニ賤業ヲ營
 ミシ者タルカ如キハ其婚姻ハ法ニ適セシモノタ
 レハ余ハ之ヲ容忍セサルヲ得サルモノタリ

〔第六百七十七〕(第三說)此說ハ左ニ記載スル二個人論

意ヲ以テ組成スルモノタリ

第一 第百八十條ハ人ノ體格上ニ於ケル誤リニ着

意セシモノニ非ス其體格上ニ於ケル誤リハ第百
 四十六條ニ規定セシ場合ニ管スルモノタリ而シ
 テ第百四十六條ニ於ケル婚姻ハ啻ニ之ヲ取消ト
 爲スヲ得可キノミニ非ス固ト其成蹟ナキモノタ
 レハ即チ取消ノ婚姻タリ然リ而シテ現ニ雙方本
 人中其一方ノ全ク承諾アラサル時ハ其婚姻ノ本
 來取消タル可キハ既ニ吾人ノ知得スル所タレハ
 例ヘハ余カ嘗テ知ル所ノマリーヲ娶ラント欲シ而
 シテ身分証書官吏ノ面前ニ於テ余ハ現在余ノ側
 ラニ在ル者ノ必スマリータル可キヲ信認セシカ

爲メ該官吏ノ問ニ應シ余ハ承諾ノ旨ヲ答ヘシト
 雖モ當時本人即チマリーハ其席ニ在ラスマリー
 ノ在ル可キ席ニ坐セシ者ハジャンヌナル女タリ然
 ルニ余ハ敢テ之ヲ知ラサルヨリ若カク直チニ承
 諾セシカ如キ此承諾ハ夫ノジャンヌヲ娶ラントス
 ルノ承諾ニ非サル固ト論ヲ待タサレハ第四百十
 六條ノ本意ニ循ヒ之ヲ婚姻セシモノト爲ス可カ
 ラサルヤ分明タリ

第二 第一百八十條ハ單ニ民事上ノ人即チ其婚姻ヲ
 承諾セシ者ノ配耦タル可キ人ノ分限ニ於ケル誤

リノミニ着意シ之ヲ規定セシモノナレハ此場合
 ニ於テハ敢テ全ク承諾ナキモノニ非ス何トナレ
 バ其體格上ニ於テハ已ニ余ノ娶ラント欲スル旨
 ヲ述ヘタル婦人ニシテ敢テ別人ニ非サルニ因レ
 リ然レトモ余ノ嘗テ承諾セシ所以ハ彼レニ或ル分
 限アルヲ信セシニ因レリ然ルニ彼レ其分限ヲ有
 セサル時ハ是レ嘗テ余ノ期望スル所ニ反スルモ
 ノナレハ其婚姻ハ稍弊アルモノナリトス故ニ之
 ヲ取消ト爲スヲ得可キモノタリ
 然リ而シテ其如何ナル分限ヲ有セサル時ハ其婚

姻ヲ取消ト爲ス可キモノタルヤ此ノ如キハ全ク
 實事上ノ問題タレハ之ヲ裁判所ノ思量ニ任ス可
 キモノトス現ニ法律ニ於テ其分限ノ如何ヲ示定
 セサルハ法文ニ於テ已ニ瞭然ノモノタルナリ曰
 ク人ニ於ケル誤リハ其婚姻ノ取消ヲ生ス可シト
 而シテ此人ニ於ケル誤リトハ其婚姻ヲ行ヒシ先
 方ノ者ノ分限ニ於ケル誤リタル敢テ多言ヲ要セ
 サルモノナレハ其婚姻ノ取消ハ其誤リシ分限ノ
 種類ニ關セス唯タ其錯誤セシ者ノ前ニ承諾セシ
 意ヲ變更スルニ至ル可キ程ナル時ハ之ヲ生スル

ニ足ル可キモノトス然レモ斯ノ如キハ全ク實事
 上ニ關スル事柄ニ屬シ敢テ理論上ノ事ニ涉ラサ
 ルモノトス

故ニ余カシツク氏ノ女ヲ聚ラント欲シ誤テポー
 ル氏ノ女ト結婚スル歟或ハ其嫡出ノ女タルヲ思
 惟セシニ私生ノ女タル歟又ハ舊教ノ信者タル女
 ノ誤テ「プレートル」僧官ト結婚セシカ如キ場合ニ於
 テ其婚姻ヲ取消ト爲ス可キヤ否ハ時ノ情況ニ因
 リ以テ裁判官ノ決定ニ任ス可キモノタリ

〔第六百七十八〕 此ニ今前ニ歴叙セシ所ヲ更ニ約言ス

ル時ハ即チ左ノ如シ

第一説 第百八十條ハ人ノ體格上ニ於ケル誤リノ
ミニ着意シ之ヲ規定セシモノトシ而シテ若カキ
弊アル婚姻ハ唯タ其取消ト爲スヲ得可キニ過キ
サレハ其誤謬ヲ爲セシ者ノミ定期内ニ之カ取消
ヲ訟求スルヲ得可キモノトス

第二説 第百八十條ハ(第一)人ノ體格上ニ於ケル誤
リ(第二)民事上ノ人即チ其婚姻ニ關シ一個ノ人ヲ
組成ス可キ分限ニ於ケル誤リヲ預定セシモノト
シ而シテ此ノ如キ婚姻ハ其孰レニ於ケルモ之ヲ

取消ト爲スヲ得可キモノタルニ過キサルモノト
ス

第三説 一個人即チ人ノ體格上ニ於ケル誤リト民
事上ノ人即チ人ノ分限ニ於ケル誤リトハ判然區
別アルモノダレハ之ヲ混同セサルヲ要トス
而シテ甲ノ場合ニ於テハ第百四十六條ヲ適用シ
之ヲ取消ノ婚姻ト爲ス可ク故ニ何時ニ限ラス苟
モ其婚姻ニ管係アル者ハ總テ其取消ヲ訟求スル
ヲ得可キモノトス但シ詐偽ヲ行ヒタル一方ノ者
ト雖モ亦然リトス

又乙ノ場合ニ於テハ第百八十條ト第百八十一條トヲ以テ之ヲ規定シ其婚姻ハ唯々之ヲ取消ト爲ス。得。可。キ。ニ。過。キ。サ。レ。ハ。雙。方。本。人。ノ。中。獨。リ。其。誤。謬ヲ爲セシ者ノミ定期内ニ其取消ヲ訟求スルヲ得可キモノトス

而シテ又分限ニ於ケル誤リハ如何ナル場合ニ關スル時ハ其婚姻ヲ取消ト爲ス可キヤ否ノ如キハ之ヲ裁判所ノ思量ニ任ス可キモノトス而シテ裁判所ニ於テハ當時ノ情況ニ從ヒ其誤謬ヲ爲セシ者ノ前ニ其婚姻ヲ承諾セシ意ヲ變更スルニ足ル

可キヤ否ヲ裁定ス可ク而シテ此ノ如キハ全ク事實ノ如何ニ關ス可キモノタリ

〔第六百七十九〕脅迫又ハ誤謬ノ弊アル婚姻ヲ取消サ

シムル權ヲ有スル者○此二個ノ原因中其孰レカ存スルニ由リ取消ト爲スヲ得可キ婚姻ノ苟諾

凡ソ適意ノ承諾ナク又ハ人ニ於ケル誤リヨリ生スル所ノ婚姻取消ノ原由ハ不。完。全。ニ。シ。テ。且。ツ。其。期。限。アル可キモノトス

(不。完。全。云。々)現ニ斯ノ如キ婚姻ハ雙方本人ノ中其脅